

海の祭祀遺跡－舞鶴市千歳下遺跡－（3）

野島 永・脇山佳奈・谷岡能史

1. 京都府舞鶴市千歳下遺跡の出土遺物紹介の経緯

千歳下遺跡は京都府舞鶴市字千歳、若狭湾を望む舞鶴大浦半島の海浜部に位置する。平成11年に計画された市道改良工事にともない、舞鶴市教育委員会によって緊急の発掘調査が行なわれた。掘削面積120㎡に満たない2度の発掘調査の結果、古墳時代の祭祀遺構が検出された。獣帯鏡片や銅釧などの青銅器をはじめ、鉄製品や鉄片、玉類や石製模造品、高坏を中心とした土師器などの土器群が出土した。それらの遺物は未公表であったことから広島大学大学院文学研究科考古学研究室では、遺跡の重要性に鑑みて資料整理を計画し、その概略を紹介することができた（野島・加藤・脇山・荒平 2009、野島・松波・松本 2010）。

今回は昨年度に紹介した千歳下遺跡出土土器の様相とともに、他の祭祀遺跡の時期的消長を把握し、当時の倭の政治的動向との関係を予察しておきたい。また、集落遺跡や祭祀遺跡などから出土する小形（型）仿製鏡の事例を集成し、その出土状況の整理をおこなう⁽¹⁾。さらに、近畿地方および中国・四国地方における祭祀関連遺跡の集成を実施し、その具体的な事例を紹介する⁽²⁾。

2. 畿内政権による対外的交渉と祭祀遺跡

出土土器からみた祭祀遺跡の時期的消長

千歳下遺跡および難波野遺跡の祭祀時期 千歳下遺跡は沖積地海浜部に位置しているため、緊急調査での掘削では、湧水が著しかった。近現代の盛土（整地土層）を除去し、古墳時代の包含層に達するまで、地表下1mほど掘削せねばならなかったようである。発掘調査区の遺構検出面周囲に排水溝を穿っており、その際に出土した遺物が最も多い。このため、遺構ごとに出土土器の様相を把握することは現実的には難しい。昨年度の報告では各種出土土器を器種ごとに紹介し、その時期的特徴を示しておいた。なかでも高坏は千歳下遺跡において最も多く出土した土器であった。昨年度の報告のなかで松波静香が指摘したように、高坏の脚部と坏部の接合部分の観察から、3種類の接合方法（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類）が確認できた（野島・松波・松本 2010）。坏部下面中央に半球状の突起部のあるものをⅠ類としたが、なかでも千歳下遺跡において類例の多かったⅠb類は、筒状の脚部に円板状の粘土を上から強く押しつけて接合し、それを基礎として周囲に坏部を成形していくもので、筒状の高坏脚部の内部に圧迫された粘土が食い込んでできる半球状の押し出し凸部が明瞭に残る特徴がある⁽³⁾。刺突痕をもつⅠa類がみられなかったことから5世紀前葉を前後する時期を想定することができよう。

一方、千歳下遺跡とは若狭・宮津湾を挟んで対岸の丹後半島には、丹後一宮神社（元伊勢籠神社）に隣接した海浜祭祀遺跡、難波野遺跡（第1図8）がある。難波野遺跡祭祀遺構

SX200から出土した高坏は、半球状の押し出し凸部の形状を真似して故意に指で成形した凸状粘土塊を貼り付けて脚部に差し込んでいたことから、この差し込み接合方法をIc類として分類し、型式学的にみて千歳下遺跡出土のそれよりも後出する痕跡的要素と認識したわけである（野島・松波・松本 2010、82頁第3図）。

このため、千歳下遺跡出土土師器は難波野遺跡祭祀遺構 SX200出土土師器と比較すれば、やや古い様相を持つとすることができる。SX200から出土した須恵器には、TK208型式前後の高坏や甕などがあり、多量の土師器群もほぼ同時期のものとすることができよう。時期幅はあるものの、少なくとも千歳下遺跡の高坏が使用・廃棄された時期はそれを遡り、一部は併行しているものとみてよかろう。

現状の調査成果からすれば、千歳下遺跡の存続時期の中心は丹後半島に所在する三大前方後円墳（網野銚子山古墳・神明山古墳・蛭子山1号墳）の築造時期よりもやや新しくなるといえよう。しかし、昨年度の調査によって、布留式期でも中相にまで遡る土師器が存在することも明らかとなった。山陰系二重口縁壺や器台（野島・松波・松本 2010、88頁第6図70、89頁第7図77）などが、千歳下遺跡の祭祀の開始時期を示すものであるならば、古墳時代前期後半段階までには当該遺跡における祭祀が開始された可能性を指摘することができる。千歳下遺跡の出土土器からみれば、4世紀中葉頃に始まり、4世紀末葉から5世紀前葉に盛行したものと理解することができる。

瀬戸内海の祭祀遺跡の開始時期 瀬戸内海周辺の海浜あるいは島嶼において、鉄製品や滑石製模造品等を集積・遺棄する祭祀遺跡についてもその開始時期をみておきたい（第1図）。まず、須恵器が出土していない海浜祭祀遺跡については、愛媛県越智郡上島町魚島大木遺跡（溝淵・松本ほか 1979）・兵庫県神戸市白水遺跡（安田編 2000）などが挙げられる。

大木遺跡の位置する魚島は瀬戸内海の中央、燧灘の絶海に位置する。海浜にわずかな居住地があるばかりの周囲6kmの小さな島で、遺跡は魚島の北岸海浜に迫り出した急峻な丘陵裾にある。付近は宮の前と呼ばれ、巖島神社小祠があった。戦前まで祭祀が継続されていたという（村上編 1997、41・42頁）。大木遺跡では、降雨によって丘陵裾が崩れ、祭祀遺物が採集された。祭祀遺物などを出土した遺構については不明ではあるが、鉄鏃や小型鉄鋌のほか帯金状の小鉄板、重圈文鏡、石製模造品、軟質石材製玉類などがみられる。共伴した可能性の高い土器のなかには須恵器がみられず、土師器および手捏ね土器しかない。そのなかでも土師器甕は小形のもので、布留式最新段階以降の形態を示している。4世紀後半まで遡る可能性の高いものはなく、5世紀前半頃の所産と考えられる。兵庫県南あわじ市木戸原遺跡（南あわじ市教育委員会 2009・2010、定松・谷口 2006）もほぼ同時期のものとしてできよう。

兵庫県神戸市白水遺跡は海岸付近で合流する明石川の支流伊川の沖積地にある。遺跡の南東、海浜部には五色塚古墳が位置する。3.5～4.0m前後の不整円形で浅い掘り込みをもつ土坑SX01から、鉄矛・摘鎌・鉈のほか、茎をもつ鉄剣形鉄板や小鉄片・鉄小塊や石製模造品、軟質石材製玉類などが出土した（安田編 2000）。共伴した土師器は5世紀中葉を遡らないとされる⁽⁴⁾。土師器のみで須恵器がみられないことから須恵器出現以前とも考えられたが、高

坏の接合形態が簡略化されており、高坏Ⅰc類が1点（安田編 2000、30頁第26図126）みられる。また、この他には高坏筒部に円板を充填して坏部底部としていると考えられる簡略化した高坏Ⅰ類（第26図127）や、高坏Ⅲ類（第26図124・125）の他、高坏Ⅳ類（第26図128・129）が主体となる。土師器甕でも布留式の肥厚した口縁端部を痕跡的にもつ小形甕（第26図133）以外は、外弯して細く延びる布留式以降の口縁部をもつものとなっている。滑石製模造品も新しい様相のものであり、やはり5世紀前半にまで遡る様相はみとめられない。

須恵器を共伴した祭祀遺跡としては、岡山県岡山市高島祭祀遺跡群（鎌木 1968、溝淵・松本他 1979、22・23頁）や、香川県香川郡直島町荒神島遺跡（溝淵・松本他 1979、19～22・28～34・45～48頁）などがある。高島祭祀遺跡では、やや古相の形態を示す小形の土師器甕（溝淵・松本他 1979、53頁、図10）があるものの、中央広場あるいは岩盤上遺跡などから出土する須恵器はTK23～TK47型式以降の型式が主体となっており、土師器高坏などには高坏Ⅰc類、差込み接合を行なうものが出現していることがわかる⁽⁵⁾。4世紀後半に遡る可能性は少ないとみてよかろう。荒神島遺跡（溝淵・松本他 1979）にしても、丸底壺に千歳下遺跡出土例（野島・松波・松本 2010、87頁第5図2）に酷似したもの（溝淵・松本他 1979、46頁、第2図2）があるものの、出土土器からは5世紀前葉から6世紀前半の時期幅で捉えることができよう。

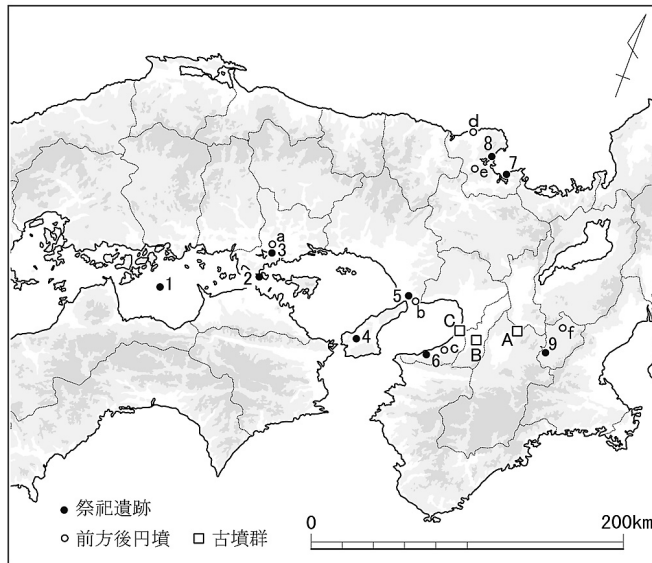
よって、瀬戸内海における同様な海浜・島嶼地域の祭祀遺跡の開始時期は、やはり千歳下遺跡よりもやや降り、現状では5世紀前半から中葉以降にならないと普及しないものとみられる。これらの海浜祭祀遺跡が海上交通の安全を祈願したものと想定すれば、瀬戸内海上交通の発展は3世紀末葉から4世紀前葉を前後した布留式土器の拡散期（次山 2000）を経て、5世紀前半から中葉前後に新たな展開を想定することができよう。

4 世紀後半における畿内政権の対外的活動と丹後半島

千歳下遺跡の祭祀開始時期は4世紀後半頃であり、その最盛期は4世紀末葉から5世紀前葉頃と推測することができた。現在把握している出土土器の様相からは、日本海沿岸に位置する千歳下遺跡のほうが瀬戸内海沿岸地域に出現する海浜祭祀遺跡よりもやや早くに出現し、その後ある程度併行しているともみてよかろう。

4 世紀後半における前方後円墳の築造規格 大王墓と目される巨大前方後円墳は大和盆地東南部の三輪山西麓から奈良盆地北東部、さらには大阪平野の河内古市、和泉百舌鳥の地へとその造営地を徐々に移動させていく（広瀬 2001他）。都出比呂志氏は大王墓の造営地の移動現象は地方の首長墓の系列の変化と連動したものであるという考えを示した（都出 1988）。地方の首長墓系列の消長は個別地域における首長の輪番的な交替を示すものではなく、畿内政権の政治的な変動に関連しており、地方首長もそれに巻き込まれた結果であるとする。その際、畿内政権と地方首長との政治的関係を示す考古学的情報のひとつとして前方後円墳の築造規格の共有があると考えられている。

前方後円墳の整然とした段築構造や相似形と想定される大型古墳が存在することから、それらは同一の設計図に基づき、高度な土木技術によって施工されたことが想定されている（岸



第1図 関連祭祀遺跡・古墳群・古墳の位置図

1. 魚島大木遺跡 2. 荒神島遺跡 3. 高島岩盤山遺跡 4. 木戸原遺跡
 5. 白水遺跡 6. 亀川遺跡 7. 千歳下遺跡 8. 難波野遺跡
 9. 土山遺跡 A. 佐紀盾列古墳群 B. 古市古墳群 C. 百舌鳥古墳群
 a. 金蔵山古墳 b. 五色塚古墳 c. 摩湯山古墳 d. 網野銚子山古墳
 e. 蛭子山古墳 f. 御墓山古墳

府京丹後市網野銚子山古墳（全長198m）や京都府与謝野町蛭子山1号墳（全長145m）、兵庫県神戸市五色塚古墳（全長194m）、大阪府岸和田市摩湯山古墳（全長200m）、三重県上野市御墓山古墳（全長190m）、岡山県岡山市金蔵山古墳（全長165m）などにあてはまるとした（岸本 1992）（第1図）。その後、岸本氏は渋谷向山古墳の築造規格との関連性を指摘し（岸本 2000）、五社神古墳の築造年代が下降することが明らかとなったことから（宮内庁 2005）、佐紀陵山古墳は、渋谷向山古墳の築造規格系譜をひき、3分の2の墳丘規模で築造されたものと訂正した（岸本編 2010）⁽⁶⁾。いずれにせよ、4世紀後半、佐紀盾列古墳群西群の大王墓と同規格の同規模墳や相似墳が丹後半島に存在することは以前から多くの識者によって重視されていた。

佐紀政権と丹後半島 三浦到氏もまた網野銚子山古墳の発掘調査を通して、その墳丘規模と墳丘形態から佐紀盾列古墳群西群諸墳との類似性を指摘している（三浦 1988）。三浦氏は、開化紀6年条には且（丹）波⁽⁷⁾大県主由碁理娘、竹野媛を妃とする記事、また垂仁紀15年条では日葉酢媛・淳葉田瓊入媛・眞砥野媛・薊瓊入媛・竹野媛ら丹波道主王の5人の娘を娶り、日葉酢媛を皇后とする記事、皇后日葉酢媛の伝承記事などを傍証として、4世紀後半から5世紀初頭にかけての丹後地域の首長とヤマト政権との政治的結合（連合）を想定する。また、丹後地方はヤマト政権が朝鮮半島や大陸との交渉を求める上での窓口（港）としての役割があったとした（三浦 1982）。これは明石海峡を眺望する位置に網野銚子山型の五色塚古墳が築造された理由と同じであるとし、両墳の被葬者が生前、佐紀盾列古墳群西群を造営した政権中枢による対外的交渉の一端を担った可能性にまで言及している。

文献史学からは、塚口義信氏が4世紀後半の王権について論じ、香坂王・忍熊王の反乱伝

本 1992他）。畿内政権と地方首長との関係はこのような大王墓と考えられる巨大前方後円墳と同じ墳丘規格をもつ相似形の首長墳を築造しえたかどうかで示されるわけである。

千歳下遺跡における祭祀活動が開始された4世紀後半には、奈良盆地北辺に位置する佐紀盾列古墳群西群において、五社神古墳（伝神功陵、全長270m）・宝来山古墳（伝垂仁陵、全長225m）・佐紀陵山古墳（伝日葉酢媛陵、全長200m）が相次いで築造されることとなる。岸本直文氏は以前に五社神古墳の4分の3の墳丘規模である佐紀陵山古墳を標式とする「佐紀陵山型築造規格」が、京都

承を重視し、彼らを佐紀盾列古墳群西群の被葬者と考証している（塚口 1985）。彼らの勢力基盤はその伝承における逃走舞台などからみても、大和北東部から山城南部あるいは近江南部、さらに丹波の地にかけてであるとし、佐紀盾列古墳群西群と網野銚子山古墳の関係を示唆する。また、神功皇后摂政元年2月条、天皇陵を真似て淡路から石を運んで造営した山陵に兵を隠したとする記事にみえる「山陵」を五色塚古墳に比定する⁽⁸⁾。このような推測が成り立つものであれば、考古学だけでなく文献史学からも五色塚古墳の築造に関しては佐紀盾列古墳群西群との関係の一端が示されているものとみることができよう。

また、近年では佐紀陵山古墳と網野銚子山古墳の築造規格の共有関係、丹波国出身女性を后とする上述の記紀の伝承記事、あるいは369年における倭と百済との間に軍事同盟とも言うべき誓盟が成立したこと（吉田 1998）などを根拠とし、4世紀の第3四半期、畿内政権内における朝鮮半島との積極的な外交を行なうグループが、日本海ルートを通じて対外的交渉を行なった結果、倭・百済軍事同盟の成立を成功させたとする（塚口 2010）。そしてその外交派グループが佐紀盾列古墳群西群の被葬者であると想定するわけである。

この佐紀政権が日本海を朝鮮半島に向かう航路を重視したという仮説は、同規格・相似形の古墳の存在や文献史学の断片的資料からの類推とも相まって魅力的である。千歳下遺跡の存続期間は佐紀盾列古墳群西群の造営時期とおおよそ併行しており、この海浜祭祀遺跡が航海の安全などを祈願したものとの前提からすれば、佐紀政権が丹後半島とその周辺海域を海上交通⁽⁹⁾、さらには対外的交渉の拠点としたと想像することも強ち不可能ではなからう。

さらにその後、古市あるいは百舌鳥の新政権が瀬戸内海ルートを重視したとするが、瀬戸内海周辺における鉄製品や滑石製模造品等を集積・遺棄する海浜地域の祭祀遺跡は千歳下遺跡よりもやや新しくなる傾向があり、5世紀前半から中葉以降に普及することからも納得できよう。

本節では、舞鶴市千歳下遺跡における祭祀活動が佐紀政権の確立と網野銚子山古墳や蛭子山1号墳などといった丹後三大古墳の造営に関連したものであると推測した。千歳下遺跡は海上交通に関わる祭祀遺跡であり、古墳時代前期後半、4世紀後半の倭の対外的交渉を担った佐紀政権が日本海沿岸を朝鮮半島に向かう海上ルートを重視していた傍証ともなりうる重要な遺跡であるといえよう（野島・加藤・脇山・荒平 2009、141頁）。

一方で、瀬戸内海の海浜・島嶼における祭祀遺跡は千歳下遺跡よりもやや遅れて出現する。それらの祭祀遺跡のなかでも大規模なものは5世紀の対外的交渉のための海上交通に関する祭祀が執り行われたものと想定することが可能とならう。古市・百舌鳥の新政権における対外的交渉が、瀬戸内海浜・島嶼における祭祀活動を活発化させたものといえよう。祭祀遺跡の分布は当時の海上ルートを復原するための重要な情報を内包しているといっておかろう（古瀬他 2002）。

3. 祭祀遺跡・集落遺跡出土の仿製鏡

本節では、弥生時代から古墳時代の祭祀遺跡出土の仿製鏡を集成し検討を行なう。祭祀遺跡の分類については小野真一氏（小野 1982）・大平茂氏（大平 2008）の分類を参考にしながら、住居の祭祀、水系の祭祀、海浜・島嶼の祭祀、山の祭祀とした。なお、今回の検討では古墳に関する祭祀は対象としていない。時代は弥生時代中期・後期・終末期・古墳時代前期・中期・後期とし、古墳時代前期を3世紀～4世紀代、中期を5世紀代、後期を6世紀～7世紀前半としてとらえている。時代を細分できるものについては、前半・後半などとしている。なお、弥生時代の仿製鏡については、大型のものが存在しないということから「小形仿製鏡」とし、古墳時代の仿製鏡については、小型から大型のものまで存在することから「小型仿製鏡」とする。仿製鏡の面径については、弥生時代から古墳時代の仿製鏡の数量と面径を検討した結果から、13cm未満を「小型鏡」、13cm以上20cm未満を「中型鏡」、20cm以上を「大型鏡」とした。弥生時代の小形仿製鏡については一部韓半島製作の可能性もあるが、今回は区別していない。以下、祭祀の種類ごとに説明を行いたい。



第2図 仿製鏡出土の住居の祭祀遺跡の分布

仿製鏡と住居の祭祀（第2図）

仿製鏡は住居から出土する事例が多く、管見において108面を確認している。時期ごとに説明を行う。

弥生時代後期～終末期 仿製鏡は45面確認した。分布を見ると、九州で32面出土しており集中していることが分かる。なお、このうちの14面は熊本県からの出土である。瀬戸内海沿岸から近畿にかけて8面出土し、関東や日本海側の鳥取県からも数面ずつ出土が認められる。鏡は弥生時代の小形仿製鏡が多く、それ以外に素文鏡・重圏文鏡が確認できる。面径は4.2～9.2cmで、このうち9点は鏡片である。

鏡の出土状況で、特異な例としては、内区を欠損させた後に廃棄された埼玉県大宮市三崎台遺跡（笹森他 1996）がある。また、広島県広島市真亀C地点遺跡の鏡は、出土状況から屋根に結ばれていたのではないかと推測されている（金井 1977）。

古墳時代前期 仿製鏡は38遺跡42面確認でき、このうち6点が鏡片である。分布は、九州5面・中国8面・四国1面・近畿4面・中部6面・関東18面となっている。鏡種は、弥生時代の小形仿製鏡・素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡・内行花文鏡である。完形鏡はすべて小型鏡であり、面径1.9～10.5cmである。

古墳時代中期～後期 仿製鏡は9遺跡10面確認でき、このうち2点が鏡片である。分布は、福岡1面・岡山2面・鳥取2面・滋賀1面・長野1面・千葉3面・埼玉1面となっており、際立った分布の偏りは認められない。鏡種は素文鏡・珠文鏡・重圏文鏡・内行花文鏡・乳文鏡・鋸歯文鏡である。完形鏡の面径は2.6～7.2cmで、すべて小型鏡を使用している。

住居の祭祀では、弥生時代は鏡が多く流通していた九州における出土が目立ち、古墳時代前期は、瀬戸内海沿岸から近畿・中部・関東での出土が多くなる。古墳時代中期以降は全ての地域で鏡数が減少することが判明した。鏡の種類は、弥生時代後期～終末期は小形仿製鏡がみられ、古墳時代に入ると素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡などの出土が増える。全時期を通して鏡の面径は1.9～10.5cmであり、いずれも13cm未満の小型鏡を使用している。住居内の出土位置については、入り口近く・住居中央部・住居端などがある。出土位置には地域・時代の違いによる傾向はみとめられない。

仿製鏡と水系の祭祀（第3図）

仿製鏡は、管見において75面確認できた。水系の祭祀は、井戸・溝・自然流路・河川・沼などから出土したものである。溝の性格については、さらに検討する必要がある。

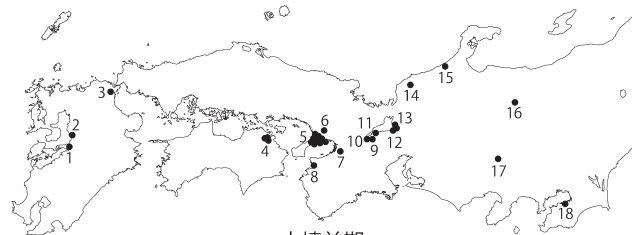
弥生時代中期～終末期 仿製鏡は30面確認でき、環濠・溝・河川から出土している。出土地域としては、九州19面・四国4面・鳥取1面・近畿4面・中部2面となっている。九州は17面が福岡・佐賀からの出土であり、住居の祭祀で熊本での出土が多い状況とは異なっている。鏡の種類は弥生時代の小形仿製鏡であり、面径は3.5～9.1cmである。

古墳時代前期 仿製鏡は29面確認でき、このうち3点は鏡片である。溝・井戸・河川から出土している。出土



弥生中期～終末期

1. 小野崎 2. 惣座 3. 吉野ヶ里 4. 本行 5. 平塚川塚 6. 雀居 7. 馬渡・東ヶ浦
- 8-9. 伊崎・金山 10. 稲光 11. 道後町 12. 大相院 13. 寺田・産宮通 14. 鉦田
15. 表山 16. 篠原 17. 亀井 18. 青谷上寺地 19. 大友西 20. 西念・南新保 21. 中小泉



古墳前期

1. 柳町 2. 宇土城址 3. 長野フンデ 4. 居石 5. 藤江別所 6. 吉田南 7. 矢作
8. 太田黒田 9. 下長 10. 金森東 11. 服部 12. 鴨田 13. 高溝 14. 木田 15. 下安原
16. 石川条里 17. 伊勢町 18. 御林跡



古墳中期～後期

1. 平原 2. 山田 3. 長越 4. 西ノ辻 5. 下長 6. 元宮川神明原 7. 姫宮 8. 勝坂
9. 長須賀桑里副

第3図 仿製鏡出土の水系の祭祀遺跡の分布

地域をみると、九州3面・四国1遺跡3面・近畿9遺跡18面・中部4面・関東1面であり、弥生時代中期～終末期に比べ九州での出土が減少し、近畿や中部での出土が多くみられる。鏡の種類には、弥生時代の小形仿製鏡・素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡・内行花文鏡・獣形鏡・神獣鏡があり、完形鏡の面径は2.7～7.8cmである。多数の鏡が出土した例として、兵庫県明石市藤江別所遺跡（稲原 1996）・香川県高松市居石遺跡（藤井・山元 1995）があり、藤江別所遺跡では、井戸から小型鏡の素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡が計9面出土している。居石遺跡では河川より小型鏡である素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡が1面ずつ出土しており、これらの鏡が共に使用された遺跡が多いことが分かる。

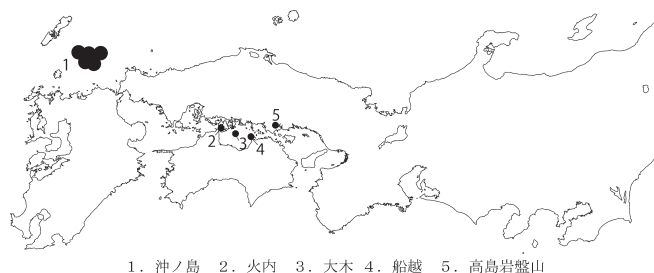
古墳時代中期～後期 仿製鏡は11面確認でき、出土遺跡は溝・旧河道・水田・湧水が報告されている。出土する地域は、九州1面・中国1面・近畿3面・中部2面・関東2遺跡4面で、全国各地にて水系の祭祀が行われたようである。鏡の種類には、素文鏡・珠文鏡・乳文鏡・内行花文鏡があり、いずれも2.5～7.4cmの小型仿製鏡である。このうち3点は鏡片である。

水系の祭祀の仿製鏡は、弥生時代中期～終末期においては九州からの出土が多く、古墳時代以降は九州での出土が減少し近畿・中部・関東での出土が多くみられる。面径は2.7～9.1cmであり、住居の祭祀と同様に全時期を通し小型鏡を使用することが判明した。

仿製鏡と海浜・島嶼の祭祀（第4図）

仿製鏡と海浜・島嶼の祭祀は、福岡県宗像市沖ノ島遺跡（鏡山 1958・原田 1961・西田編 1978）・愛媛県越智郡上島町大木遺跡（長井 1975）・愛媛県今治市火内遺跡（阿部・真鍋 1998）・岡山県岡山市高島岩盤山遺跡（鎌木 1968）・香川県三豊市船越遺跡（松本 1981）の5遺跡のみであり、遺跡数は非常に少ない。海の祭祀について検討を行った亀井正道氏（亀井 1988）や野島永氏の研究（野島 2007）を参考にして分類すると、沖ノ島遺跡のように大和王権が執り行った祭祀遺跡と、大木遺跡・火内遺跡・高島岩盤山遺跡・船越遺跡のように在地で行われたと考えられる祭祀遺跡がある。時期ごとにみていくこととする。

古墳時代前期後半 仿製鏡は、沖ノ島遺跡の岩上祭祀でのみ確認できた。沖ノ島遺跡は、古墳時代以降、大和王権によって航海安全を祈願するための祭祀が行われおり、大量の鉄製品・石製模造品・青銅鏡などが出土している。岩上祭祀の仿製鏡は35面出土し、16号遺跡は小型鏡3面・大型鏡1面、17号遺跡は小型鏡2面・中型鏡10面・大型鏡9面、18号遺跡は小型鏡3面・大型鏡3面、19号遺跡は大型鏡1面、21号遺跡は小型鏡3面となっている。岩上祭祀



1. 沖ノ島 2. 火内 3. 大木 4. 船越 5. 高島岩盤山

第4図 仿製鏡出土の海浜・島嶼の祭祀遺跡の分布

では小型鏡とともに大型鏡が使用されている状況が確認できた。京都府舞鶴市千歳下遺跡では2点の鏡片が出土しており、そのうちの1点は面径11.2cmの仿製鏡の可能性があり、海浜・島嶼の祭祀のなかでは早い段階から青銅鏡を使用している（野島・加藤・脇山・荒平 2009、125頁

第6図)。

古墳時代中期～後期 仿製鏡は5遺跡9面確認できた。沖ノ島遺跡では岩陰祭祀が行われ、大木遺跡・火内遺跡・高島岩盤山遺跡・船越遺跡では在地の祭祀が行われた段階である。遺跡の分布は瀬戸内海から福岡県沖ノ島遺跡にかけて確認できた。沖ノ島遺跡の岩陰祭祀では、8号遺跡から小型鏡2面、7号遺跡から小型鏡1面、15号遺跡から小型鏡1面、23号遺跡から小型鏡1面が出土するものの、岩上祭祀段階に比べると仿製鏡の面数は減少し、小型鏡のみを使用している。

大木遺跡は重圏文鏡1面の他に滑石製有孔円板・鉄製品などが出土している。時期は古墳時代中期である。火内遺跡は包含層から土師器・須恵器・製塩土器の他、重圏文鏡1面・銅鈴・鉄製品が出土している。時期は古墳時代後期である。高島岩盤山遺跡は重圏文鏡1面の他、石製模造品・土師器・鉄製品などが出土している。時期は古墳時代中期後半～後期である。船越遺跡では砂堆から素文鏡1面と共に祭祀に関係する遺物がみつかった。この遺跡の近くに製塩遺跡があることから、製塩に関する祭祀とされている(松本 1981)。時期は古墳時代中期である。大木遺跡・火内遺跡・高島岩盤山遺跡・船越遺跡の時期はいずれも古墳時代中期～後期におさまる遺跡であり、仿製鏡はすべて古墳時代の小型鏡を使用している。

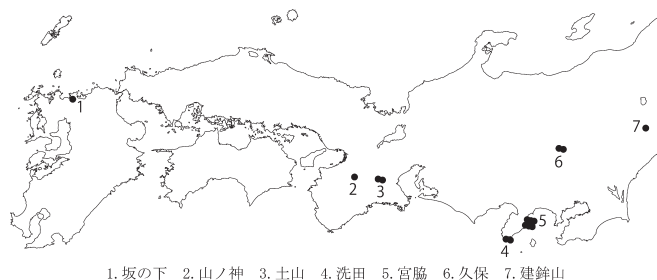
仿製鏡と海浜・島嶼の祭祀遺跡については、沖ノ島遺跡は、大型鏡と小型鏡を共に使用する段階から小型鏡を使用する段階に移行すると指摘されているように(佐田 1999)、古墳時代前期後半である岩上遺跡では小型鏡・中型鏡・大型鏡を大量に使用し、一方で古墳時代中期～後期の岩陰祭祀では小型鏡のみを使用していた。古墳時代前期後半の沖ノ島遺跡では古墳に副葬されるような大型鏡を多量に使用し、祭祀を行ったという特殊性が再確認できた。また、在地の祭祀遺跡ではすべて小型鏡を使用しており、他の祭祀遺跡と同様の傾向にあることが分かった。なお、仿製鏡が出土した海浜・島嶼の祭祀遺跡は、すべて古墳時代の遺跡であり、弥生時代の遺跡は確認できなかった。舶載鏡に関しても海浜・島嶼の祭祀遺跡では出土しておらず、弥生時代は海浜・島嶼の祭祀で青銅鏡を使用していない可能性が高い。

仿製鏡と山の祭祀(第5図)

仿製鏡は、全国で8遺跡16面確認できたのみである。山の祭祀は、山を望む場所にて祭祀を行ったもの、山の丘陵や岩場にて祭祀を行なったものがある。

古墳時代中期～後期 仿製鏡が出土した山の祭祀は、すべて古墳時代中期から後期の範囲に収まり、分布には特に偏りなどはないと判明した。東北から九州の広範囲で山の祭祀が行われたと考えられる。

山を望む場所にて祭祀を行ったものに群馬県富岡市久保遺跡(富岡市市史編さん委員会 1987)・静岡県熱海市宮脇遺跡(熱海市史編纂委員会



第5図 仿製鏡出土の山の祭祀遺跡の分布

編 1967）・静岡県下田市洗田遺跡（堀田・川合 1950）がある。宮脇遺跡は多賀神社境内で発見された。古墳時代中期から古代の遺跡で、向山に対する祭祀が行なわれたと考えられている（小野 1982）。仿製鏡は6面出土しており、大石下から4面、神木下から2面が出土している。面径は5cm以下のものが5面、13.3cmの六獣鏡が1面である。遺跡の立地が丘陵上の久保遺跡・洗田遺跡も山に対する祭祀を行っている。久保遺跡は素文鏡2面と石製模造品などが出土しており、榛名山ニツ岳に対し祭祀と推測されている（井上 1999）。洗田遺跡は、素文鏡1面・珠文鏡1面が出土しており、三倉山に対する祭祀が行なわれたと推測されている（堀田・川合 1950）。

山の丘陵や岩場で行われた祭祀遺跡としては、福島県白河市建鉾山遺跡（亀井 1966）・奈良県桜井市山ノ神遺跡（樋口 1928a・b）・三重県名張市土山遺跡（水口・門田 1978）・福岡県前原市坂の下遺跡（前原市教育委員会 1993）がある。建鉾山遺跡は、山頂から山腹に存在する巨岩を対象として営まれた祭祀遺跡であり、珠文鏡1面が出土している。山ノ神遺跡では素文鏡2面、土山遺跡では重圏文鏡1面・四獣鏡1面、坂の下遺跡では重圏文鏡1面を用いている。

仿製鏡が出土する山の祭祀遺跡は、時代は古墳時代中期～後期のみとなっており、面径は、宮脇遺跡の六獣鏡が面径13.3cmで中型鏡である以外は、すべて小型鏡を用いていた。なお、弥生時代～古墳時代前期の事例は管見の限りみとめられなかった。弥生時代の山の祭祀遺跡では、銅鐸・銅剣・銅戈・銅鉾が祭祀用品として使用されることが多く、山の祭祀で鏡が使用されるのは、古墳時代中期以降と考える。

以上、仿製鏡が出土した弥生時代から古墳時代の祭祀遺跡を検討した。仿製鏡の分布について述べると、住居や水系の祭祀では、弥生時代には仿製鏡を多く入手できたと考えられる九州での出土が目立つが、古墳時代以降は近畿を中心に分布が認められるようになり、中部・関東での出土も多くなる。海浜・島嶼の祭祀では、古墳時代前期後半は、确实には沖ノ島遺跡からの出土のみであり、中期～後期は沖ノ島遺跡と瀬戸内海に分布する。山の祭祀は古墳時代中期～後期にみられ、九州から東北まで分布している。仿製鏡を用いる祭祀が、古墳時代において広範囲に広がっていく状況を確認できた。鏡の種類は、弥生時代には重圏文系・内行花文系の小形仿製鏡が多くみられ、それ以外にも素文鏡・重圏文鏡も確認できる。古墳時代前期は、素文鏡・重圏文鏡・珠文鏡が多く、弥生時代小形仿製鏡もわずかに確認できる。古墳時代中期以降は、素文鏡・珠文鏡の他に、乳文鏡・内行花文鏡・獣形鏡などがみられるようになる。

祭祀遺跡で仿製鏡を使用する遺跡の変化について述べると、弥生時代後期から古墳時代前期前半は、仿製鏡は住居や水系の祭祀のみが確認できる。住居は集落内と判断でき、水系の祭祀は集落近くと考えられる場所からの出土が多く、仿製鏡を使用する祭祀は集落やその周辺のみで行われていたと推測する。古墳時代前期後半は、引き続き各地で住居や水系の祭祀において仿製鏡が使用され、さらに、海浜・島嶼の祭祀である沖ノ島遺跡の岩陰祭祀で仿製

鏡の使用が始まる段階である。古墳時代中期～後期は、住居や水系の祭祀の遺跡数は減少するが引き続きみとめられ、海浜・島嶼や山の祭祀においても仿製鏡が多く使用される時期である。海浜・島嶼や山の祭祀は、集落から離れた場所で行われることが多かったと考える。

今回の検討によって、弥生時代や古墳時代前期前半のように、集落内や集落に近い場所のみで仿製鏡が使用されている段階と、古墳時代前期後半以降のように、集落から離れた場所でも仿製鏡を祭祀の道具として使用する段階が存在することが判明した。仿製鏡の使用方法が増加し、仿製鏡の意義が複雑になっていく様相を窺う事ができたといえる。

4. 近年調査された近畿・中国・四国地方の「水辺祭祀」遺跡

—文献史料との比較—

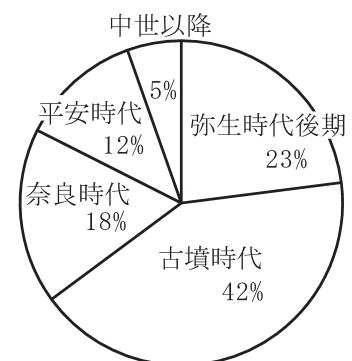
本稿は、「海辺の祭祀」跡である京都府舞鶴市千歳下遺跡との関連研究として「水辺の祭祀」遺跡を集成したものである。「水辺の祭祀」とは、河川や溝の近辺において行われる祭祀を総称したものである⁽¹⁰⁾。「水辺の祭祀」において「水」が重要な意味を持っていたという前提に立つなら、「水辺の祭祀」は「地鎮祭祀」や「墓域祭祀」と異なり、水を必要とする農耕や、水によって引き起こされる災害と強い関連を持っている祭祀といえる。具体的には雨乞いや止雨祈願などが「水辺」において行われていたと想定される。

「水辺の祭祀」に関連する遺跡は全国各地で発見され、関連する研究も膨大である（例えば、金子編 1998、和田 1999）。そうしたことも考慮して、本稿では2001年以降に発掘調査報告書が刊行された近畿・中国・四国地方の遺跡を主たる対象に、弥生時代後期以降の「水辺の祭祀」遺跡を集成し、その概要とこれをもとにした考察を述べる。なお、使用した報告書は主として広島大学に所蔵されているもので、報告書中に「水辺の祭祀」と明記されているものの他、溝跡や自然流路などから祭祀遺物が見つかるケースも近似的に「水辺の祭祀」遺跡として扱った。また、都城に関連した遺跡は関連機関による集成（例えば、近江 2008、53頁）が随時行われているため含めていない。

本集成の概要と事例

第5表は「水辺の祭祀」に関連した遺跡の一覧である。以下では出典表記を簡潔にするために報告書の考察に相当する部分以外について、遺跡に関する出典を第5表の番号で示す。

「水辺の祭祀」遺跡は大まかに山間部よりも沖積平野に多く、祭祀の性格や立地条件を反映してか、水田跡付近の出土例も多い。出土遺物から見てみると、ミニチュア土器や墨書土器、赤色に塗装された土器、破碎土器、玉類、斎串・人形などの木製品、獣骨などを伴う遺跡が多い。第6



第6図 水辺祭祀遺跡時期別割合

図は第5表を時代ごとに集計した結果を示す。第6図を見ると、弥生時代後期～古墳時代前期と奈良時代～平安時代前半に多い。前者は、古墳の出現

とも関連して土器編年に関する研究が進み、年代が細かい範囲で特定されるケースが多いこととも関連しているとみられる。後者は律令政権下の地方官衙やこれに付随した集落で行われたとみられる祭祀が特徴的である。

弥生時代～古墳時代について、個別の事例を見てみる。奈良県大和高田市土庫長田遺跡では古墳時代前期～後期の大規模な河道から滑石製勾玉や有孔円板などとともに、多量の韓式系土器も見つかり、渡来人や渡来系文化と「水辺の祭祀」との関連について示唆に富んでいる（第5表22）。和歌山県有田川町野田地区遺跡では、布留式期の土器を伴う溝から形代とされる祭祀具が見つかるとともに、武内宿禰が水主神を勧請したのがはじまりとされる、遺跡に隣接する藤並神社との関係が指摘されている（川崎 2009、46頁）。これは、神社の初源や「水辺の祭祀」、さらにはそれらと畿内政権との関連を示す資料として重要な一例となりうる。また、出雲市矢野遺跡でも、破碎されたとみられる5世紀前半頃の須恵器が溝から出土している（三吉 2010）。矢野遺跡では8世紀に『風土記』における「矢野社」があったとされ（高橋 2010、163頁）、調査地が現在の八野神社境内に位置していること、さらには遺跡が弥生時代から古墳時代前期にかけて出雲平野の拠点集落であったことを考慮すると、今後における遺跡全体の時系列的把握が期待される。香川県さぬき市寺田・産宮遺跡では弥生時代後期後半の河床面から小形仿製鏡が見つかり、愛媛県西予市坪栗遺跡でも異体字銘帯鏡が溝跡から出土し、ともに鏡が「水辺の祭祀」に利用されていたとの見解が出されている（第5表52・60）。両者は土器や木製品のみが見つかる事例とは明らかに異なるといえるが、これが具体的に何を意味するのか、発掘調査成果から特定するには至らなかった。

次に、古代を中心に具体例を見てみる。滋賀県東近江市金貝遺跡では8世紀後半について、水路遺構と三間社流造神社本殿とされる掘立柱建物跡が近接した箇所で見出されていることから、水利に関連して神社が建てられたとされ、「水辺の祭祀」と神社との関連を探る上で貴重な事例を提供している（内田 2010、108～115頁）。滋賀県近江八幡市芦刈遺跡・大中の湖南遺跡は律令期の湖岸における港湾施設であるとともに、石敷遺構が湖岸における律令祭祀の場であった点で（田中 2005）、海上・湖上交易とも関連して「海の祭祀」遺跡とも似た側面を持つ。大阪府八尾市植松遺跡では、旧大和川⁽¹¹⁾の支流となる自然流路から8世紀～9世紀初めのミニチュア土器や墨書土器が見つかり、当時の大阪平野東部で行われていた水害に対する祭祀の典型例と位置付けられている（川瀬 2007、136頁）。同様に、大阪府大阪市長原遺跡では奈良時代～平安時代前半の墨書土器とウシやウマの骨が自然流路から検出されている（第5表15）。長原遺跡は同時期を中心とした大規模な集落跡・水田跡であることから、「水辺の祭祀」が水田経営と一帯であったことを窺わせる事例といえる。徳島県徳島市観音寺遺跡では8世紀前半～9世紀前半の各期における斎串や人形といった木製祭祀具が自然流路から層位的に検出され、当該期に祭祀が半継続的に繰り返し行われていたとみられる（第5表49・50）。

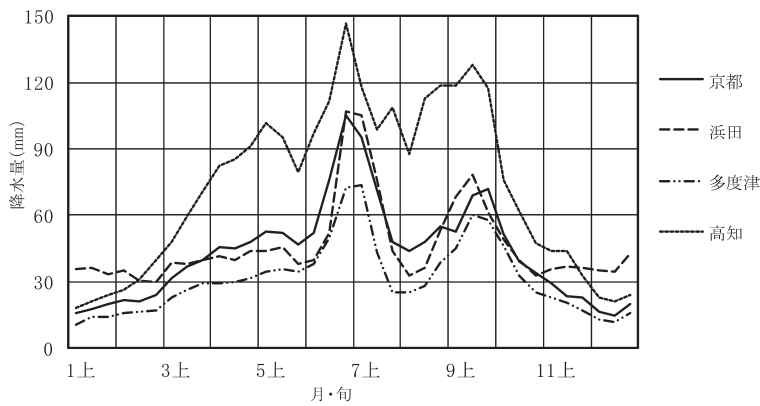
都城については、今回の集成対象としなかったが、平安京では天皇の権力が衰微した10世紀後半以降、祭祀遺物を伴う遺跡が減少し、祭祀場が集約される（久世 1994、831頁）。奈

良県樫原市四条遺跡でも藤原宮期に流水があったとされる地点から銅製品や土馬、墨書土器、馬歯が見ついている（鈴木編 2010、28～29頁）。

一方、「海辺の祭祀」遺跡も広義には「水辺の祭祀」遺跡であり、千歳下遺跡との関連から近年の興味深い事例をいくつか挙げておく。石川県七尾市小島西遺跡では古墳時代中期～平安時代の祭祀遺物が大量に見つかり、特に8世紀後半～9世紀の木製祭祀具や墨書土器が大量に出土し、周囲に「香嶋津」があったとされることから、官衙を主体とした祭祀が行われていたとされる（大西編 2008）。小島西遺跡における祭祀遺物の初源年代は千歳下遺跡よりもやや下るが、平安時代までの祭祀遺物が多量に見ついている点、また日本海沿岸に位置する点は共通する。一方で、官衙を主体とする古代の様相は千歳下遺跡と異なり、比較対象としての価値は高いといえる。静岡県浜松市伊場遺跡とこれを貫く伊場大溝の周辺では古墳時代中期から古代の滑石製模造品や木製祭祀具が見つかり海浜部において集落全体および官衙に関わる祭祀が行われていたとされ（鈴木敏則 2008、92～93頁、鈴木敏則 2009、181～184頁）、海岸に位置しつつも大溝を舞台とした「水辺の祭祀」が行われていた点で貴重な事例といえる。浜名湖周辺では静岡県浜松市舞阪町天白遺跡において7～8世紀の陶馬や勾玉形土製品などが製塩土器とともに見つかり、陶馬が祈雨に用いられたという指摘がある（鈴木一有 2009、96頁）。島根県の出雲平野も浜名湖周辺と似た地形的条件を有し、比較的海岸に近かったとされる遺跡で重要な成果が得られている。島根県出雲市出雲大社境内遺跡では古墳時代前期（4世紀末頃）の石製模造品などの祭祀遺物が大量に出土し、出雲大社本殿の成立がこれ以前に遡るという見解が出されている（椛山 2004、486頁）。また、付近には8世紀後半～9世紀の神社と官衙の性格を併せ持つ青木遺跡があるが、ここでは祭祀遺物として神像や絵馬などが検出され、律令体制下における祭祀儀礼および神社との関係を探る稀有な事例として、考古学・歴史学双方にとって大きな示唆を与えている（今岡他 2006）。佐賀県唐津市中原遺跡は8～9世紀を中心とした官衙跡であるが、前方後円墳が造られた時期に流路SD552から祭祀に用いられたとみられる完形の土師器が見ついている（美浦 2009）。これは、狭い空間的スケールの中で古墳、「生活の場」、官衙としての利用が繰り返されていたという実態の中で、祭祀行為がどのように変容していったのかを考える上で今後における参考事例となる。

考察 一文献史料・気象データとの比較を中心に一

「水辺の祭祀」遺跡にはその後の神社における祭祀へとつながっていく過程が推察できるものがあり、このことから神社の成り立ちは「水」との関連が重要といえる。こうした一連の過程は考古遺跡だけでなく、「六国史」や『延喜式』などの文献史料からも探ることができる（例えば、久世 1994、831頁、和田 1999、172～176頁）。古代については、史料から祈雨・止雨関連記載が集成され、これらが唐で行われていたものと一致し、都城から離れた地方では国司の独自の判断によって実施されていたことなどが示されている（三宅 1995）。一方で、「水辺の祭祀」、その中でも雨乞いに代表される農耕関連祭祀は考古遺物や文献史料から論じられることはあっても、自然科学的な視点からアプローチした論考は相対的に少な



第7図 各地の降水量

い。筆者はこれまで、考古遺跡における洪水痕跡や文献気象史料を集計してきた。そこで、ここでは、「水辺の祭祀」が日本固有の気候や風土、あるいは降水量の季節変化などどのように関連しているのか、触れてみたい。

文献史料に現われた雨乞い祭祀に関連する最初の具体的な記述として、『日本書紀』の皇極天皇元年（642年）7月条における「群臣相謂之曰。随村々祝部所教。或殺牛馬祭諸社神。或頻移市。或禱河伯。既無所効。蘇我大臣報曰。可於寺轉読大乘經典。悔過仏所説敬而祈雨」、これにつづく8月条における「天皇幸南淵河上。跪拝四方。仰天而祈。即雷大雨遂雨『五日溥潤天下。於是。天下百姓俱稱万歳日至徳天皇』」⁽¹²⁾が挙げられる。前者では祈雨に伴って牛馬が生贄となり、後者は河川上流での祈祷が想起される。文献史料は近畿地方中部に関する記載が大半であるが、『日本書紀』の記載は本集成における「水辺の祭祀」遺跡とよく一致している。これに対し、祈晴・止雨祈願については、『続日本紀』⁽¹³⁾の宝亀6年（775年）9月条における「遣使奉白馬及幣丹生川上。畿内群神。霖雨也」が最初の具体的な記載で、雨乞い同様に河川近傍での祈祷が想起される。地方に関する文献記載は賑給を主としたものが大半であるが、『続日本後紀』⁽¹⁴⁾の天長10年（833年）7月条には「越後国蒲原郡伊夜比古神預之名神。以彼郡每有旱疫。致雨救病也」、承和4年（837年）1月条には「在石見国五ヶ郡中神惣十五社。始預官社。以能応吏民之禱。久救旱疫之灾也」という記載がある。これは「水辺の祭祀」と雨乞いとの関係を直接的に示すものではないが、神社において雨乞いが行われていたことを示唆する。

第7図は気象庁のデータをもとにした1901～2010年を統計期間とした京都、浜田（島根県）、多度津（香川県）、高知の4地点における旬合計降水量である⁽¹⁵⁾。近畿地方中部では11世紀頃まで旱魃が文献史料に記載された気象災害の中では最も多く（日下部 1977）、中国地方・四国地方でも14世紀頃まで旱魃が相対的に多い（日下部 1969、1978）。また、近畿地方を中心にほぼいずれの年代でも旱魃や雨乞いは7～8月に最も多く記載されている（中央気象台・海洋気象台 1939、山本 1983、638頁、谷岡 2010）。上述の『日本書紀』における記載は、現行のグレゴリオ暦で8月28日、9月8日のものである。この雨乞い記載は時期的にやや遅いとも言えるが、古代における史料の傾向、および現代の気象データと大きくかけ離れたものではない。

日本における降水量の季節・経年変化に多大な影響を与えるものとして、北太平洋高気圧や南北間の気温格差をエネルギー源とする傾圧不安定波の季節変化、比熱の違いによる海陸

間の温度・気圧のコントラストなどが挙げられる。こうした要素は日本だけでなく、降水量の季節変化が明瞭な東アジア全体に重要な役割を果たす。日本における祭祀を論じる際には、韓国や中国における事例との比較が気候学的見地に立った時に再認識できる。本稿で集成した考古資料の中にも、韓式土器など渡来系の遺物が相伴している例がある。これは今後の議論の進め方を考える上で示唆に富んでいるといえよう。

一方で、古代における気象関連項目全体を見ると、文献史料には雷が旱魃と同程度に多く記載されている。「六国史」のうち最も記述が詳細な『日本三代実録』では雷が特に多く記載され、8月についてみるなら、雷の記載が最も多い875年、877年には雷と旱魃が交互あるいは併せて記されている。また、雷は7～8月に多く記載され、この点は現在⁽¹⁶⁾と共通している。京都における1881～2010年の平均雷日数は多い月から8月が5.0日、7月が4.8日、9月が2.7日であり、日本の大半もこれに準じた傾向を示す⁽¹⁷⁾。しかし、現代においての気象観測データによる分析では、雷日数が多い年と少雨年・多雨年は必ずしも一致しない。このことは、雷が古代において雨をもたらすものとして過剰に意識された結果、あるいは雷やこれに付随する激しい現象への畏怖が表れた結果といえる。雷は考古遺物としては残らないが、日本各地に残る「雷電神社」などは(高木 2007、216～222頁)、雷が神社における祈禱や祭祀の中で重要な意味を持っていたと言えよう。

さらに、「水辺の祭祀」遺跡の中には繰り返し洪水にさらされ、洪水痕跡が何層も認められるものもある。詳細は各報告書を参照されたいが、大阪府大阪市長原遺跡、岡山県岡山市津寺遺跡などがこれに該当する。同様に、文献史料にも雨乞いだけでなく、止雨祈願や洪水、暴風雨も記載されている。古代における精神世界と「水」との関連が、恵みをもたらす反面、旱魃と洪水という「水」に関連した災害とも向き合わなければならない状況の中で構築されていったといえよう。

本節では、近畿・中国・四国地方を対象に「水辺の祭祀」遺構・遺物が記載された、2001年以降刊行の発掘調査報告書を集成した。その結果は、既往の研究と大きく矛盾しないものであることが確かめられ、「水辺の祭祀」と神社創建との関連を考える上で貴重な事例を得ることもできた。祭祀全般については近畿地方を中心とした文献史料にも記載されていることから、「水辺の祭祀」が雨乞いなどの農耕に関連した行為と密接に関連していることが看取された。文献史料から得た知見では雨乞いは、気候学的に降水量が少ない時期あるいはその直後に行われることが多い。こうした降水量の季節変化は東アジアに共通するものであり、実際の遺跡でも祭祀遺物と渡来系の遺物が相伴する事例がある。雷や洪水なども古代における精神世界や実際の祭祀行為と関連していたとみられる。また、「海辺の祭祀」遺跡については、古代の文献史料が内陸の盆地である奈良や京都に集中して多いことから、内陸部における「水辺の祭祀」遺跡に比べて、遺跡と史料の間での比較が難しい。さらに、大まかに海岸に立地しているものの、遺跡を詳細に見ると、急峻な崖を伴う磯・河口・ラグーンなど、その立地条件は多様である。これに加え、海岸ではなく、海が見える尾根上にある祭祀遺跡

や神社にも、「海」に関連した祭祀の場としての機能を求めることができよう。また、「海辺の祭祀」遺跡内に自然流路や人工的な溝がある場合は「水辺の祭祀」遺跡としてみることもでき、「海辺の祭祀」「水辺の祭祀」をどのように分類、関連付けていくのか、という課題も残った。本稿は時間的制約から限られた地域における遺跡データの収集が中心としなってしまうが、今後はデータ分析の対象地域を広げるとともに、考古学・文献史学・自然科学が融合した研究をおこなっていききたい。

6. おわりに

今回の資料集成を中心とした概要報告については、第3節、仿製鏡に関する考察を脇山佳奈、第4節、水辺の祭祀に関する概要紹介を谷岡能史が執筆した。第1・2節その他を野島永が執筆し、全体を調整した。

本報告は広島大学考古学研究室と舞鶴市教育委員会が提携して推進している共同研究『日本海をめぐる古代交流と海浜祭祀に関する研究』（研究代表者：古瀬清秀）および、広島大学大学院文学研究科で推進している『世界遺産・厳島の総合的研究』の科学研究費補助金（基盤研究（B）、課題番号20320103〈研究代表者：西別府元日〉）による研究成果の一部である。共同研究が実現するにあたっては舞鶴市教育委員会吉岡博之氏のご尽力があったことを記しておきたい。

なお、第2節に関してではあるが、日本海に位置する千歳下遺跡出土土器と兵庫県神戸市白水遺跡や岡山県岡山市高島祭祀遺跡など、瀬戸内海に位置する祭祀遺跡出土土器および関連資料の比較検討を行なった。土器の観察とその比較検討を行なうにあたっては、神戸市教育委員会 千種浩氏、神戸市埋蔵文化財センター 西岡誠司氏・中村大介氏、元岡山県教育委員会 福田正継氏、岡山理科大学 亀田修一氏にご便宜を図っていただき、多くのご教示を得た。また、京都府北部、丹後地域の祭祀遺跡に関しては杉原和雄氏のご教示を得た。前方後円墳の築造規格に関しては奥村清一郎氏や岸本直文氏からご教示を受けた。畿内政権の動向については、三浦到氏・岸本直文氏・塚口義信氏の諸論考に多くを負っていることも明記して、感謝したい。

注

- (1) 古墳時代の滑石製模造品については、森本編 2005文献において集成され、祭祀遺跡における出土状況がある程度わかる状況にある。今回の集成では滑石製模造品については省略した。なお、日本出土の小形（型）仿製鏡については、白石・設楽編 1994・2002文献に拠っており、その後の新出資料を補った。
- (2) 祭祀遺跡出土遺物についても、1985年に国立歴史民俗博物館によって情報収集が行なわれていたが（白石編 1985）、その後の新出資料などの補遺をめざし、今回は2001年以降に発行・出版された埋蔵文化財報告書を検索した。
- (3) 接合形態として、高坏Ⅱ類は脚部を坏底部外面にある程度押し込むもので、筒状の脚上端部の内部にわずかに圧迫された坏部粘土がわずかな押し出し部分となるものがあり、I b類との弁別が困難な場合が

ある。高坏Ⅲ類は脚上端部を坏底部外面に接着させ、接着部外面を輪状の粘土を貼り付けて補強するのみのものである。脚上端部は円筒状とならず、閉じてしまっているものも含まれる。これらは5世紀後半以降の小形のものに多い型式である。高坏Ⅳ類は脚裾部を別作りとするものである。円板状のもの他に高坏筒部下端の中空部にあわせて空隙がある輪状の粘土を貼り足す場合も多い。なお、野島・松波・松本 2010文献82頁、第3図では、難波野条里遺跡の円板状のものを模式化した。実際には上記のものも各類型に含まれる。

- (4) 安田編 2000文献では、出土した土師器がTK208型式の須恵器と共伴する土師器に類似することから、TK208型式前後とする。
- (5) 岡山理科大学福田正継氏にご教示いただいた。記して感謝したい。なお、高島の西側海浜部ではTK208前後の須恵器も採集されており、高島における祭祀は5世紀中葉ごろまで遡る可能性が高い。
- (6) さらに岸本直文氏は宮内庁の測量調査に基づき、「五社神古墳型」を設定した。京都府与謝野町蛭子山古墳、大阪府岸和田市摩湯山古墳、岡山県岡山市金蔵山古墳などは、佐紀盾列古墳群西群でも最も新しくなる五社神古墳の墳丘規格を基準とすると持論を修正した（考古学研究会岡山例会、平成23年1月8日）。いずれの墳丘をモデルとしたとしても、佐紀盾列古墳群西群の前方後円墳を基準とした墳丘規格が丹後半島や瀬戸内地域の海上交流の要衝地に配置されることにはかわりはない（第1図）。
- (7) 和同6（713）年、丹波国から加佐・与謝・丹波（のちの中郡）・竹野・熊野の5郡が割かれて、丹後国が成立する。分国以前、丹波国の中心は現在の京都府京丹后市峰山町である。
- (8) 兵庫県神戸市の五色塚古墳は三段築成に造成されているが、その上・中位の葺石は地質学的には淡路島のものである可能性が指摘されている（西谷 1974）。
- (9) 鳥取県における「因幡型円筒埴輪」は、丹後半島三大古墳から出土する丹後型円筒埴輪の原型とされており、4世紀後半期、彼此の首長間交流を推察することができる考古学的物証といえる（東方 2010）。
- (10) 広義には井戸や池の近辺での行為も含まれるが、今回は流水を伴う遺構やここから出土した遺物を主たる対象とした。
- (11) 大和川は1702年に流路が人工改変される以前、柏原市の石川との合流点から大阪平野東部を北流し、現在の京橋駅付近で淀川に注いでいた。
- (12) 語句の抽出は、黒板勝美・国史大系編修会編 1952文献をもとにした。
- (13) 語句の抽出は、黒板勝美・国史大系編修会編 1934 a 文献をもとにした。
- (14) 語句の抽出は、黒板勝美・国史大系編修会編 1934 b 文献をもとにした。
- (15) 降水量データは気象庁Webサイト内の「過去の気象データ検索」（URL: <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>（最終閲覧日2011年1月4日））から入手した。
- (16) 1931年以降の雷日数については気象庁作成の『気象庁年報』および気象庁Webサイトに加え、京都については、京都地方気象台編 1981文献に掲載されている1881年以降のものも参照した。
- (17) 本州の日本海側では冬季にも雷が多いが、日本海側における冬季の雷日数は気象庁のデータから長期的に増加傾向にある（吉田 2002）。この点から、観測時代より前の日本海側における雷日数について類推することには大きな不確実性を伴う。

引用・参考文献

- 熱海市史編纂委員会編 1967 『熱海市史』上巻、熱海市、97～103頁。
- 阿部勝行・真鍋昭文 1998 『火内遺跡・臥間遺跡』愛媛県埋蔵文化財調査センター。
- 稲原昭嘉 1996 『藤江別所遺跡』明石市教育委員会。
- 井上 太 1999 「群馬県富岡市曾木久保遺跡の祭祀遺構と儀鏡」『月刊考古学ジャーナル』No. 446、ニュー・サイエンス社、6～9頁。

- 今岡一三・平石 充・松尾充晶 2006 『青木遺跡』Ⅱ、国道431号道路改築事業（東林木バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター。
- 上田宏範 1969 『前方後円墳』学生社。
- 内田保之 2010 「まとめ」『金貝遺跡』ほ場整備関係（経営体育成基盤整備）遺跡発掘調査報告書37-2 滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会、100～116頁。
- 近江俊秀 2008 「東一坊坊間路と三条大路の交差点の形状について」『平城京左京三条一坊五・十二・十三坪発掘調査報告書』奈良県文化財調査報告書第126集、奈良県立橿原考古学研究所、44～57頁。
- 大西 顕編 2008 『七尾市小島西遺跡』（財）石川県埋蔵文化財センター。
- 大平 茂 2008 「播磨国の祭祀遺跡－風土記にみる神まつりの背景－」『祭祀考古学の研究』雄山閣、226～238頁。
- 奥村清一郎 1996 「丹後半島の大型前方後円墳－その築造原理を探る－」『京都府埋蔵文化財論集』第2集、創立十周年記念誌、（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター、55～62頁。
- 奥村清一郎 2001 「丹後二大古墳の比較研究」『京都考古』第90号、京都考古刊行会、1～8頁。
- 奥村清一郎 2008 「網野銚子山古墳の前方部」『京都考古』第98号、京都考古刊行会、1～8頁。
- 小野真一 1982 『祭祀遺跡』考古学ライブラリー10、ニュー・サイエンス社。
- 鏡山 猛 1958 『沖ノ島』宗像大社復興会期成会。
- 金井亀喜 1977 「真亀C地点遺跡」『高陽新住宅市街地開発事業地内埋蔵文化財発掘調査報告』広島県教育委員会、77～84頁。
- 金子裕之編 1998 『日本の信仰遺跡』雄山閣。
- 亀井正道 1966 『建鉾山』吉川弘文館。
- 亀井正道 1988 「五 海と川の祭り」『古代を考える 沖ノ島と古代祭祀』吉川弘文館、130～163頁。
- 鎌木義昌 1968 「備前高島遺跡について－第1次調査概要－」『サヌカイト』創刊号、岡山理科大学考古学部、2～8頁。
- 川崎雅史 2009 「考察」『野田地区遺跡』（財）和歌山県文化財センター、45～57頁。
- 川瀬貴子 2007 「植松遺跡の性格」『植松遺跡』（財）大阪府文化財センター調査報告書第164集、（財）大阪府文化財センター、133～136頁。
- 岸本直文 1992 「前方後円墳築造規格の系列」『考古学研究』第39巻第2号、考古学研究会、45～63頁。
- 岸本直文 2000 「畿内大型前方後円墳の築造規格の再検討」『人文研究』大阪市立大学文学部紀要第52巻第2分冊、9～47頁。
- 岸本直文他 2005 『前方後円墳の築造規格からみた古墳時代の政治的変動の研究』平成13年度～平成16年度科学研究費補助金（基盤研究B）研究成果報告書。
- 岸本直文編 2010 『玉手山1号墳の研究』大阪市立大学考古学研究報告第4冊、大阪市立大学日本史研究室
- 京都地方気象台編 1981 「雷電日数」『京都気象100年』（財）日本気象協会、90～91頁。
- 日下部正雄 1969 「19世紀末までの四国地方の気象災害」『研究時報』20、502～526頁。
- 日下部正雄 1977 「19世紀末までの近畿地方の気象災害」『研究時報』29、1～51頁。
- 日下部正雄 1978 「19世紀末までの中国地方の気象災害」『研究時報』30、23～56頁。
- 久世康博 1994 「祭祀遺物」（財）古代学協会編『平安京提要』角川書店、821～833頁。
- 宮内庁書陵部陵墓調査室 2005 「平成2年度 陵墓関係調査概要」『書陵部紀要』第43号、88～122頁。
- 黒板勝美・国史大系編修会編 1934a 『続日本紀』新訂増補国史大系第2巻、国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房。
- 黒板勝美・国史大系編修会編 1934b 『日本後紀・続日本後紀・日本文徳天皇実録』新訂増補国史大系第3巻、

- 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房。
- 黒板勝美・国史大系編修会編 1952 『日本書紀』新訂増補国史大系第1巻下、吉川弘文館。
- 佐田 茂 1999 「福岡県大島村沖ノ島遺跡の祭祀遺構と儀鏡」『月刊考古学ジャーナル』No. 446、ニュー・サイエンス社、29～32頁。
- 定松佳重・谷口梢 2006 「南あわじ市出土の韓式系土器について」『韓式土器研究』X、3～9頁。
- 白石太一郎編 1985 『祭祀関係遺物出土地地名表（共同研究「古代の祭祀と信仰」附編）』（『国立歴史民俗博物館研究報告』第7集）、国立歴史民俗博物館。
- 白石太一郎・設楽博己編 1994 『弥生・古墳時代遺跡出土鏡データ集成（共同研究「日本出土鏡データ集成」2）』（『国立歴史民俗博物館研究報告』第56集）、国立歴史民俗博物館。
- 白石太一郎・設楽博己編 2002 「弥生・古墳時代遺跡出土鏡データ集成補遺1」『国立歴史民俗博物館研究報告』第97集、国立歴史民俗博物館。
- 杉原和雄 1994 「丹後国一宮・籠神社所蔵の遺物について」『考古学と文化史』安井良三博士還暦記念論集、15～25頁。
- 梶山林繼 2004 「神道考古学から見た古代の大社」『出雲大社境内遺跡』大社町教育委員会、483～493頁。
- 鈴木一有 2009 「鳥居松遺跡における伊場大溝調査の意義」『鳥居松遺跡5次 伊場大溝編』（財）浜松市文化振興財団、173～192頁。
- 鈴木敏則 2008 「古墳時代」『伊場遺跡総括編』伊場遺跡発掘調査報告書第12冊、浜松市教育委員会、90～95頁。
- 鈴木敏則 2009 「祭祀遺物」『舞阪町天白遺跡』（財）浜松市文化振興財団、93～102頁。
- 鈴木裕明編 2010 『四条遺跡』II、奈良県立橿原考古学研究所調査報告第106集、奈良県立橿原考古学研究所。
- 高木勇夫 2007 「地理から読み取る「雷」」妹尾堅一郎編『雷文化論』慶應義塾大学出版会、207～223頁。
- 高橋 周 2010 「矢野遺跡出土の文字資料について」『矢野遺跡 自然科学分析・考察編（第4分冊）』出雲市の文化財報告10、出雲市教育委員会、163～166頁。
- 田中咲子 2005 「遺物のまとめ」『芦刈遺跡・大中の湖南遺跡』ほ場整備関係（経営体育成基盤整備）遺跡発掘調査報告書32-2、滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会、138～139頁。
- 谷岡能史 2010 「近畿地方の文献史料から見た7～10世紀における暖候期の気候」『地理学評論』83、44～59頁。
- 中央气象台・海洋气象台 1939 「旱魃」『日本気象史料』中央气象台、520～557頁。
- 塚口義信 1985 「四世紀後半における王権の所在」『末永先生米壽記念献呈論文集』坤、末永雅雄先生米壽記念会、1167～1195頁。
- 塚口義信 2010 「4・5世紀における丹波の政治集団とヤマト政権」『古代学研究』186、古代学研究会、25～32頁。
- 次山 淳 2000 「土器からみた諸変革」『国家形成過程の諸変革』考古学研究会、55～73頁。
- 都出比呂志 1988 「古墳時代首長墓系譜の継続と断絶」『待兼山論叢』第22巻、1～16頁。
- 寺沢 薫 2000 『王権誕生』日本の歴史第02巻、講談社。
- 富岡市市史編さん委員会 1987 『富岡市史』自然編 原始・古代・中世編、富岡市、215～257頁。
- 長井数秋 1975 「愛媛県魚島の遺跡・遺物について」『ソーシャル・リサーチ』第4号、ソーシャル・リサーチ研究会、24～35頁。
- 西田正夫編 1978 『宗像沖ノ島 本文』宗像大社復興期成会。
- 西谷真治 1974 「山間の古墳と海辺の古墳」『兵庫県史』第1巻、兵庫県、298～311頁。
- 野島 永 2007 「古墳時代祭祀遺跡における鉄の消費形態」『たたら研究』第47号、たたら研究会、1～20頁。
- 野島 永 2009 「祭祀遺跡において消費される鉄―鉄の価値をめぐって―」『初期国家形成過程の鉄器文化』

雄山閣、160～178頁。

- 野島 永・加藤 徹・脇山佳奈・荒平 悠 2009 「海の祭祀遺跡－舞鶴市千歳下遺跡－（1）」『広島大学考古学研究室紀要』第1号、広島大学大学院文学研究科考古学研究室、121～144頁。
- 野島 永・松波静香・松本達也 2010 「海の祭祀遺跡－舞鶴市千歳下遺跡－（2）」『広島大学考古学研究室紀要』第2号、広島大学大学院文学研究科考古学研究室、75～93頁。
- 原田大六 1961 『続沖ノ島』宗像神社復興期成会。
- 東方仁史 2010 「山陰東部における埴輪の導入と展開」『円筒埴輪の導入とその画期』中国四国前方後円墳研究会第13回研究会発表要旨集、中国四国前方後円墳研究会、71～79頁。
- 樋口清之 1928a 「奈良県三輪町山ノ神遺跡研究」『考古學雑誌』第18巻第10号、日本考古学会、647～657頁。
- 樋口清之 1928b 「奈良県三輪町山ノ神遺跡研究」『考古學雑誌』第18巻第12号、日本考古学会、771～787頁。
- 広瀬和雄 2001 『各地の前方後円墳の消長に基づく古墳時代政治構造の研究』平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））研究成果報告書。
- 藤井雄三・山元敏裕 1995 『居石遺跡』高松市教育委員会。
- 古瀬清秀（編）・奥村晃史・大久保徹也・谷若倫郎・西別府元日・乗岡 実・乗安和二三 2002 「瀬戸内海における古代海上交通と祭祀」『瀬戸内海に関する研究』（財）福武学術文化振興財団、128～170頁。
- 堀田美桜男・川合治栄 1950 「加茂郡朝日村吉佐美小字溝の上（洗田）原史時代祭祀遺蹟」『静岡県史蹟名勝天然記念物調査報告』第13集 静岡県、1～8頁、図版1～23。
- 前原市教育委員会 1993 『荻浦の文化財 前原市荻浦地区土地区画整備事業に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査の速報2』前原市教育委員会。
- 松本敏三 1981 「備讃瀬戸で発見の祭祀遺物」『香川の歴史』第1号、香川県史編さん室、12～26頁。
- 三浦 到 1982 「丹後の古墳と古代の港」『考古学と古代史』同志社大学考古学シリーズI、241～246頁。
- 三浦 到 1988 「墳丘形態から見た巨大古墳に関する一考察」『考古学と技術』同志社大学考古学シリーズIV、113～123頁。
- 美浦雄二 2009 「古代における流路の変遷について」『中原遺跡Ⅲ 5区の調査』佐賀県文化財調査報告書第179集、佐賀県教育委員会、263～267頁。
- 水口昌也・門田良三 1978 『名張市遺跡調査紀要』名張市教育委員会・名張市遺跡調査会。
- 溝淵和幸・松本敏三他 1979 『瀬戸内の海上信仰調査報告（東部地域）』瀬戸内海歴史民俗資料館。
- 南あわじ市教育委員会 2009 『南あわじ市埋蔵文化財調査年報』Ⅱ、南あわじ市文化財調査報告書第2集。
- 南あわじ市教育委員会 2010 『南あわじ市埋蔵文化財調査年報』Ⅲ、南あわじ市文化財調査報告書第3集。
- 三宅和朗 1995 「日本古代の「名山大川」祭祀」『古代国家の神祇・祭祀』吉川弘文館、14～61頁。
- 三吉秀充 2010 「矢野遺跡C区SD3042出土の初期須恵器について」『矢野遺跡 自然科学分析・考察編（第4分冊）』出雲市の文化財報告10、出雲市教育委員会、159～162頁。
- 村上和馬編 1997 『魚島村誌』魚島村。
- 森本 徹編 2005 『古墳時代の滑石製品』第54回埋蔵文化財研究集会、埋蔵文化財研究会・（財）大阪市の文化財協会。
- 安田 滋編 2000 『白水遺跡第3・6・7次 高津橋大塚第1・2次発掘調査報告書－神戸市白水特定土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書その2－』神戸市教育委員会。
- 山本武夫 1983 「A. D. 1～1600年の日本（西南日本京都）の気候変化」『気象研究ノート』147、627～639頁。
- 吉田 晶 1998 「東アジアの国際関係と倭王権」『倭王権の時代』新日本出版社、18～60頁。
- 吉田 弘 2002 「日本列島における雷日数の地理的分布とその長期的傾向」『天気』49、279～285頁。
- 和田 萃 1999 「古代の祭祀空間」國學院大學日本文化研究所編『祭祀空間・儀礼空間』雄山閣、139～183頁。

第4節関連報告書（第5表の番号と対応／簡略表記）

1) 滋賀県教育委員会・(財) 滋賀県文化財保護協会 2004『新宮神社遺跡』 2) 滋賀県教育委員会・(財) 滋賀県文化財保護協会 2005『芦刈遺跡・大中の湖南遺跡』 3) 滋賀県教育委員会・(財) 滋賀県文化財保護協会 2008『弘前遺跡Ⅰ』 4) 滋賀県教育委員会・(財) 滋賀県文化財保護協会 2010『金貝遺跡』 5) (財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 2008「難波野遺跡・難波野条里制遺跡、大垣遺跡・一の宮遺跡平成18・19年度発掘調査報告」『京都府遺跡調査報告集』128 6) (財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター 2003『佐山遺跡』 7) (財) 大阪府文化財センター 2006『小路遺跡Ⅲ』 8) (財) 大阪府文化財センター 2007『久宝寺遺跡竜華地区発掘調査報告書Ⅶ』 9) 8) に同じ。 10) (財) 大阪府文化財センター 2007『植松遺跡』 11) (財) 大阪府文化財センター 2009『讃良郡条里遺跡Ⅸ』 12) (財) 大阪市文化財協会 2003『加美遺跡発掘調査報告Ⅱ』 13) (財) 大阪市文化財協会 2003『長原遺跡東部地区発掘調査報告Ⅵ』 14) 13) に同じ。 15) (財) 大阪市文化財協会 2004『長原遺跡東部地区発掘調査報告Ⅶ』 16) 吹田市教育委員会 2003『吹田市五反島遺跡発掘調査報告書 遺物編』 17) 兵庫県教育委員会 2002『住吉宮町遺跡第33次調査』 18) 兵庫県教育委員会 2002『入佐川遺跡』 19) 神戸市教育委員会 2010『雲井遺跡第28次発掘調査報告書』 20) 中町教育委員会 2005『安坂・城の堀遺跡Ⅲ』 21) 奈良県立橿原考古学研究所 2006「東井上遺跡第1次調査」『奈良県遺跡調査概報 2005年度』第一分冊 22) 大和高田市教育委員会 2010『土庫遺跡群』 23) (財) 和歌山県文化財センター 2009『野田地区遺跡』 24) 23) に同じ。 25) (財) 和歌山県文化財センター 2010『西飯降Ⅱ遺跡、丁ノ町・妙寺遺跡』 26) 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 2003『古志本郷遺跡Ⅴ』 27) 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 2004『家ノ脇Ⅱ遺跡 原田遺跡1区 前田遺跡4区』 28) 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 2004『大津町北遺跡 中野清水遺跡』 29) 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 2005『高津遺跡』 30) 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 2005『高津遺跡』 31) 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター 2008『九景川遺跡』 32) 出雲市教育委員会 2010『矢野遺跡』 33) 益田市教育委員会 2003『浜寄遺跡』 34) 頓原町教育委員会 2001『森Ⅴ遺跡』 35) 岡山県古代吉備文化財センター 2001『下庄遺跡 上東遺跡』第1分冊 36) 岡山県古代吉備文化財センター 2003『津島遺跡4』 37) 岡山県古代吉備文化財センター 2007『総社遺跡 金井戸遺跡 北溝手遺跡』 38) 岡山県古代吉備文化財センター 2008『南溝手遺跡 窪木遺跡』 39) 岡山市教育委員会 2009『津寺遺跡(加茂小・体育館)遺跡』 40) 庄原市教育委員会 2008『大仙2号遺跡』 41) (財) 東広島市教育文化信協事業団 2002『青谷1号遺跡発掘調査報告書』 42) (財) 東広島市教育文化振興事業団 2009『安芸国分寺周辺遺跡発掘調査報告書』 43) (財) 山口県教育財団山口県埋蔵文化財センター 2001『川棚条里跡(木舟地区・田尻地区)』 44) (財) 山口県ひとづくり財団山口県埋蔵文化財センター 2004『武久川下流域条里遺跡』 45) 下関市教育委員会 2001『伊倉遺跡』 46) 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 2004『西沢遺跡』 47) 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 2005『寺ヶ谷遺跡 広田遺跡 磯地遺跡』 48) (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2004『大柿遺跡Ⅱ』 49) (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2007『観音寺遺跡Ⅳ』 50) (財) 徳島県埋蔵文化財センター 2008『観音寺遺跡Ⅴ』 51) 徳島県教育委員会・徳島大学埋蔵文化財調査室 2005『庄(庄・蔵本)遺跡』 52) (財) 香川県埋蔵文化財調査センター 2003『県道富田西志度線道路改良事業及び県道高松長尾大内線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 寺田・産宮通遺跡 南天枝遺跡』 53) (財) 香川県埋蔵文化財調査センター 2006『前田東・中村遺跡Ⅲ』 54) (財) 香川県埋蔵文化財センター 2009『旧練兵場遺跡Ⅰ』 55) 高松市教育委員会 2004『天満・宮西遺跡～旧河道編～ 上西原遺跡～第2次調査～』 56) 高松市教育委員会 2008『西下遺跡』 57) (財) 愛媛県埋蔵文化財調査センター 2005『道後町遺跡Ⅱ』 58) (財) 愛媛県埋蔵文化財調査センター 2008『高橋佐夜ノ谷Ⅱ遺跡2次』 59) 松山市教育委員会・(財) 松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター 2002『船ヶ谷遺跡-4次調査-』 60) 西予市教育委員会 2009『坪栗遺跡』 61) 高知県教育委員会・(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター 2007『ミトロ遺跡』 62) 高知県教育委員会・(財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター 2008『北ノ丸遺跡』

第1表 仿製鏡と住居の祭祀遺跡一覧

所在地	遺跡名	鏡式	面径 (cm)	遺構	出土位置・特記事項	時期
群馬県太田市	中溝・深町遺跡22号住居	内行花文鏡・鏡片	復元9.0～ 10.0	住居	住居床面直上で出土	古墳前期
群馬県伊勢崎市	舞台遺跡146号住居	重圓文鏡	6.8	住居		古墳前期
群馬県高崎市	神保下條遺跡1号住居	重圓文鏡	6.1	住居		古墳前期
群馬県甘楽郡甘楽町	天引向原遺跡20号住居跡	珠文鏡	7.0	住居		古墳前期後半
埼玉県大宮市	三崎台遺跡第3次調査第52号住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅲb?、田尻5?)	欠損7.6	住居	鏡面下にして、入口近くの床面で出土	弥生後期
埼玉県桶川市	八幡耕地遺跡	珠文鏡?・鏡片	復元5.6	住居	住居南壁の床面で出土	古墳後期
千葉県袖ヶ浦市	大竹遺跡群二又堀遺跡SI105住居	重圓文鏡	7.3	住居		古墳前期
千葉県柏市	戸張一番割遺跡30号住居	重圓文鏡	6.3	住居		古墳前期前半
千葉県木更津市	根崎遺跡SI015住居	鋸歯文鏡	7.2・ 穿孔1	住居		古墳中期
千葉県佐原市	片野向遺跡	重圓文鏡	3.8	住居		古墳後期
千葉県佐原市	太田・大篠塚遺跡48号住居	重圓文鏡	11.2	住居		不明
千葉県市原市	草刈遺跡K039A	弥生重圓文系鏡 (高倉Ⅲb?・田尻3)	5.4	住居	壁寄りの場所出土	古墳前期
千葉県市原市	草刈遺跡C区97号住居	珠文鏡	6.8	住居		古墳前期後半
千葉県市原市	草刈六之台遺跡88号住居	小型仿製鏡・鏡片	復元9.0	住居		古墳前期
千葉県市原市	草刈六之台遺跡823号住居	素文鏡	2.8	住居	竈の東袖と北東の柱穴間の埋土下層で出土。822号住居と重複しており、822号住居に伴う可能性あり	古墳前期
千葉県市原市	草刈遺跡L区029号住居	珠文鏡	7.0	住居		古墳前期
千葉県市原市	草刈遺跡L区037号住居	素文鏡	1.9	住居		古墳前期
千葉県市原市	草刈遺跡L区0103号住居	内行花文鏡	6.6	住居		古墳前期
千葉県市原市	草刈遺跡L区301号	乳文鏡	9.2	住居		古墳前期～中期
千葉県市原市	草刈遺跡L区098号	珠文鏡	4.5	住居		古墳前期
東京都八王子市	宇津木向原遺跡4区5号住居	弥生小形仿製鏡・素文鏡	5.9	住居	住居北東隅で鏡面下にして出土	古墳前期前半
東京都八王子市	館町515遺跡20号住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅲb、田尻5)	7.7	住居	住居北西隅の床直上で出土。鏡面上にして出土	古墳前期前半
神奈川県横浜市	大場第二地区遺跡群No.2地区YT-10住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅲb?、田尻5?)	5.7	住居		弥生後期
神奈川県逗子市	池子遺跡群N0.2地点2号住居	内行花文鏡・鏡片 (船載か仿製か不明)	復元9.4	住居	埋土	古墳前期
新潟県佐渡市	蔵王遺跡	内行花文鏡	10.5	掘立柱建物		古墳前期?
新潟県佐渡市	蔵王遺跡	珠文鏡	復元6.5	掘立柱建物		古墳前期?
富山県射水市	小杉上野遺跡	弥生内行花文系鏡もしくは内行花文鏡	7.2	住居		古墳前期前半
石川県金沢市	塚崎遺跡6号住居	弥生小形仿製鏡?・鏡片	8.0	住居	東北部床面で出土	古墳前期前半
長野県長野市	篠ノ井遺跡群SB7250	重圓文鏡	3.3	住居		古墳前期
長野県長野市	塩崎遺跡48号住居	内行花文鏡・鏡片	復元6.7	住居	住居床面に鏡面を上で出土	古墳中期
静岡県焼津市	小深田遺跡第7地点D-23住居	重圓文鏡	3.7	住居		古墳前期後半
京都府木津川市	木津城山遺跡	素文鏡	4.2	住居	鏡背面に赤色顔料	弥生後期
京都府福知山市	石原遺跡SIHa001	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅲb、田尻5)	6.8	住居		弥生後期後半
滋賀県栗東市	高野遺跡	重圓文鏡?	7.1	住居		古墳中期
滋賀県犬上郡多賀町	木曾遺跡SH24	珠文鏡・鏡片	復元5.4・ 研磨	住居		古墳前期後半
和歌山県和歌山市	北田井遺跡	重圓文鏡	4.5	住居		古墳前期
和歌山県有田郡有田川町	旧吉備中学校校庭遺跡11号住居	弥生内行花文系鏡(高倉Ib、田尻2a)・鏡片	復元6.0	住居		弥生後期後半
大阪府豊中市	山ノ上遺跡	弥生重圓文系鏡 (高倉Ⅲb、田尻3)	6.1	住居	埋土	弥生後期
大阪府八尾市	久宝寺遺跡住居3	重圓文鏡	6.7	住居		古墳前期
大阪府八尾市	久宝寺遺跡住居3	素文鏡	2.5	住居		古墳前期
兵庫県神戸市	玉津田中遺跡	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱa、田尻2b)	7.5	住居	埋土	弥生後期
兵庫県神戸市	長田神社境内遺跡SB09	弥生重圓文系鏡・単線波文鏡	6.2	住居	住居中央付近、鏡面下にして地面に対して50°の角度で立って出土 床面より高い位置で出土	弥生後期後半
岡山県赤磐市	斎宮遺跡	珠文鏡	3.6	住居		古墳中期
岡山県総社市	山屋敷遺跡	重圓文鏡	5.3	住居		弥生後期
岡山県岡山市	川入遺跡	内行花文鏡?・鏡片	復元20	住居	溝近く	古墳前期
岡山県岡山市	足守川加茂B遺跡	弥生重圓文系鏡 (高倉Ib、田尻1う)	4.4	住居	埋土	古墳前期前半
岡山県岡山市	百間川沢田遺跡	素文鏡	3.0	住居		古墳前期
岡山県岡山市	百間川沢田遺跡住居21	素文鏡	3.0	住居	住居内の土坑肩部のやや下った位置で出土	古墳前期
岡山県岡山市	津寺遺跡	重圓文鏡	6.0	住居		古墳前期
岡山県真庭市	谷尻遺跡	素文鏡	3.0	住居		古墳前期
岡山県真庭市	下湯原B遺跡	素文鏡	4.3	住居		古墳後期

広島県広島市	真亀C地点遺跡	弥生重圏文系鏡 (高倉Ⅰa、田尻1あ)	6.2	住居	住居の外周をめぐる溝上 25cmから出土。鏡の出土状 況から、鏡は屋根に結ばれ ていた可能性あり	弥生後期後半
広島県広島市	毘沙門台遺跡	重圏文鏡	6.0	住居		古墳前期?
香川県坂出市	下川津遺跡SBNa11	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅲb、田尻5)	7.3	住居	住居壁寄りで出土	古墳前期前半
香川県善通寺市	彼ノ宗遺跡ST09	弥生内行花文系鏡・鏡片	復元8.0	住居	南西端の床面直上で出土	弥生後期後半
鳥取県東伯郡湯梨浜町	長瀬高浜遺跡SI-138	素文鏡	3.2	住居		古墳中期
鳥取県東伯郡湯梨浜町	長瀬高浜遺跡SI-100	素文鏡	2.6	住居		古墳中期
鳥取県東伯郡湯梨浜町	長瀬高浜遺跡SI249	重圏文鏡	3.6	住居		古墳前期前半
鳥取県東伯郡湯梨浜町	南谷大山遺跡23号住居	小型仿製鏡・鏡片	復元7.5	住居		弥生後期後半
鳥取県東伯郡湯梨浜町	宮内第1遺跡SI101	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅲb、田尻5)	7.8	住居	柱穴近くで出土	弥生後期
福岡県北九州市	長野A遺跡22号住居	鏡式不明鏡・鏡片	復元11.0	住居		古墳後期
福岡県豊前市	鬼木四反田遺跡	弥生重圏文系鏡(高倉 Ⅰa、田尻1あ・い)	記述なし	住居		弥生後期
福岡県嘉麻市	タタラ遺跡16号住居	弥生小形仿製鏡	復元4.6	住居		弥生後期
福岡県福岡市	弥永原遺跡2号堅穴住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱa、田尻2b)	7.1	住居		弥生後期
福岡県春日市	小倉池ノ下遺跡	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱa、田尻2b)	記述なし	住居		不明
福岡県筑紫野市	御笠地区遺跡G地区SX32	弥生重圏文系鏡 (高倉Ⅰb、田尻1え?)	4.4	住居		弥生後期
福岡県筑紫野市	貝元遺跡312号住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅰ、田尻1)	復元8.4	住居		弥生後期後半
福岡県筑紫野市	日焼遺跡	弥生内行花文系鏡(高倉 Ⅱb、田尻3a)・鏡片	復元6.8	住居		不明
福岡県太宰府市	宮ノ本遺跡第6次6SI045	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅰb、田尻2a)	7.0	住居	住居の入り口の土坑より出 土	弥生後期
福岡県小郡市	横隈町遺跡2地区14号住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱb、田尻3a)	記述なし	住居	埋土	不明
福岡県久留米市	良積遺跡	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱb、田尻3a)	記述なし	住居		弥生後期
佐賀県鳥栖市	内精遺跡	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅰb、田尻2a)	破片	住居		弥生後期後半
佐賀県神埼郡吉野ヶ里町	亀作A遺跡SH009住居	弥生小形仿製鏡	7.0?	住居		古墳前期前半
佐賀県佐賀市	幸田寄遺跡	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅰb、田尻2a)	7.8	掘立柱建物	柱穴より出土	弥生
佐賀県佐賀市	惣座遺跡SB219住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱa、田尻2b)	9.1	住居		弥生後期
佐賀県佐賀市	惣座遺跡SB219住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱa、田尻2b)	7.5	住居	壁際で床面直上から鏡面下 にして出土。住居に敷いた と思われる藁の痕跡あり	弥生後期
佐賀県小城市	八ツ戸遺跡3号住居	弥生重圏文系鏡 (高倉Ⅱ、田尻2)	7.6	住居		弥生
佐賀県多久市	四反田遺跡8号住居	弥生内行花文系鏡(高倉 Ⅱb、田尻3a)・鏡片	復元6.9・ 研磨・穿 孔	住居	床面直上で出土	弥生～古墳
大分県由布市	北方下角遺跡	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱa、田尻2b)	8.2	住居		弥生後期後半～ 古墳前期前半
大分県竹田市	石田遺跡	弥生重圏文系鏡 (高倉Ⅰb、田尻1え)	5.1	住居	壁側、床面から10cmほど浮 く	弥生後期前半
大分県竹田市	小園遺跡A区5号住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱb、田尻3a)	8.1	住居	床面に密着した状況で出土	弥生後期後半
大分県竹田市	石井入口遺跡23号住居	弥生小形仿製鏡・鏡片	復元5.6	住居	埋土	弥生後期
大分県竹田市	石井入口遺跡57号住居	弥生重圏文系鏡 (高倉Ⅰa、田尻1い)	5.5	住居	埋土	弥生後期後半
大分県豊後大野市	鹿道原遺跡157号	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱa、田尻2b)	8.8	住居	住居中央。鏡面表にして出 土	弥生後期後半～ 古墳前期前半
大分県日田市	本村遺跡3次32号住居	弥生小形仿製鏡・鏡片	復元8.0	住居		弥生後期後半
熊本県山鹿市	方保田東原遺跡1号住居	弥生重圏文系鏡 (高倉Ⅰb、田尻2)	8.1	住居		弥生後期～古墳 前期前半
熊本県山鹿市	方保田東原遺跡15号住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅰb、田尻2a)	7.9	住居		古墳前期前半
熊本県山鹿市	方保田東原遺跡17号住居	弥生重圏文系鏡 (高倉Ⅰb、田尻1え)	4.7	住居	鏡背面上にして出土	古墳前期前半
熊本県山鹿市	方保田東原遺跡7号住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅰb、田尻2a)	7.8	住居		古墳前期前半
熊本県菊池市	うてな遺跡57号住居	弥生内行花文系鏡 (文様不明)・鏡片	5.9	住居	西壁接し、布に包まれて出 土	弥生後期
熊本県菊池市	小野崎遺跡年賀塚Ⅱ区SH-24	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱa、田尻2b)	6.7	住居		弥生
熊本県菊池市	小野崎遺跡町畑Ⅶ区SH-23	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱa、田尻2b)	7.6	住居		弥生
熊本県菊池市	小野崎遺跡年賀塚Ⅱ区SH-14	弥生小形仿製鏡・素文鏡	4.6	住居		弥生
熊本県菊池郡大津町	西弥護免遺跡	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅲa、田尻3b)	8.6	住居?	住居と溝の切り合い部分で 出土	弥生後期
熊本県合志市	木瀬遺跡4号住居	弥生重圏文系鏡 (高倉Ⅰb、田尻1え)	4.9	住居	ベット状遺構の近くで出土	弥生後期
熊本県合志市	八反原遺跡1号住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱa、田尻2b)	7.7	住居		弥生後期
熊本県玉名市	高岡原遺跡16号住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱb、田尻3a)	7.9	住居	出土位置は床面直上ではな い	弥生後期

熊本県熊本市	フスギ遺跡24号住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱb、田尻3a)	8.6	住居	埋土	弥生後期
熊本県熊本市	石川遺跡13区2号住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱb、田尻3a)	6.9	住居		弥生後期
熊本県熊本市	徳王遺跡	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱa、田尻2b)	7.7	住居?		弥生後期
熊本県熊本市	五丁中原遺跡5号住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅰa、田尻1)	8.0	住居	ピット内から埋納された状況で出土	弥生後期
熊本県熊本市	戸坂遺跡20号住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱ'、田尻4)	9.2	住居?	包含層	弥生後期
熊本県阿蘇市	下山西遺跡32号住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅰb、田尻2a)	6.3	住居	壁面近くで出土	弥生後期
熊本県球磨郡錦町	夏女遺跡23号住居	弥生内行花文系鏡 (文様不鮮明)	8.4	住居	床面より15cm浮いて出土	弥生後期
熊本県球磨郡錦町	夏女遺跡50号住居	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅱa、田尻2b)	7.9	住居	ベット状遺構付近で出土	弥生後期
宮崎県児湯郡川南町	西ノ別府遺跡SA1	重圏文鏡	7.1	住居		古墳前期
宮崎県延岡市	速日峰地区遺跡18E区1号住居	弥生小形仿製鏡	5.3	住居		弥生
鹿児島県指宿市	横瀬遺跡2号住居	弥生重圏文系鏡 (高倉Ⅰ、田尻1)・鏡片	復元6.5	住居	埋土上層。住居とは関係ない可能性あり	弥生後期後半

第2表 仿製鏡と水系の祭祀遺跡一覧

所在地	遺跡名	鏡式	面径 (cm)	遺構	出土位置・特記事項	時期
千葉県館山市	長須賀条里制遺跡ESD-1	乳文鏡	9.5	溝		古墳中期
千葉県市原市	御林跡遺跡352号遺構	内行花文鏡	7.1	溝		古墳前期
神奈川県伊勢原市	勝坂祭祀遺跡	珠文鏡	4.5	表採		古墳中期～後期
神奈川県伊勢原市	勝坂祭祀遺跡	獣形鏡	7.4	表採		古墳中期～後期
神奈川県伊勢原市	勝坂祭祀遺跡	珠文鏡	6.8	表採		古墳中期～後期
富山県中新川郡上市町	中小泉遺跡SD39	弥生重圏文系鏡 (高倉Ⅱ、田尻2)	7.1	溝	肩部	弥生後期
石川県金沢市	西念・南新保遺跡SD22	重圏文鏡	6.4	大溝	肩部	弥生後期～古墳前期前半
石川県金沢市	下安原遺跡溝	珠文鏡	7.8	溝		古墳前期前半
石川県金沢市	大友西遺跡西SD01	弥生小形仿製鏡 (鏡式不明)	6.8	溝		弥生後期
福井県福井市	木田遺跡	鏡式不明・鏡片	欠損	溝	肩部	古墳前期後半
長野県長野市	石川条里遺跡	内行花文鏡・鏡片	破片	溝		古墳中期～中期
山梨県甲府市	伊勢町遺跡	珠文鏡	7.0	河川		古墳前期後半～中期
静岡県静岡市	元宮川神明原遺跡宮川6区SR313	乳文鏡・鏡片	破片	旧河道		古墳中期～後期
静岡県賀茂郡河津町	姫宮遺跡	珠文鏡	記述なし	沼・池		古墳中期
滋賀県守山市	下長遺跡SD-5	素文鏡	3.7	溝	最下層	古墳中期
滋賀県長浜市	鴨田遺跡	弥生小形仿製鏡	6.5・穿孔2	溝	肩部	古墳前期
滋賀県米原市	高溝遺跡大溝	重圏文鏡	3.6	大溝		古墳前期～中期
滋賀県米原市	高溝遺跡大溝	素文鏡	3.3	大溝		古墳前期～中期
滋賀県守山市	服部遺跡	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅲa、田尻3b)	7.8	溝		古墳前期
滋賀県守山市	金森東遺跡	弥生小形仿製鏡 (文様不明)	7.7	溝	上層	古墳前期
滋賀県守山市	下長遺跡	重圏文鏡	4.2	溝		古墳前期
和歌山県和歌山市	太田黒田遺跡	内行花文鏡・鏡片	復元9.0・穿孔2	溝	最上層	古墳前期
大阪府東大阪市	西ノ辻遺跡	素文鏡	2.5	水利施設	包含層	古墳中期後半
大阪府八尾市	矢作遺跡	四獣鏡	8.0	溝	鏡面上、壺が覆う	古墳前期前半
大阪府八尾市	亀井遺跡	弥生重圏文系鏡 (高倉Ⅲb、田尻3)	5.4	河川	河床近く	弥生後期
兵庫県明石市	藤江別所遺跡	重圏文鏡	4.1	井戸	埋土	古墳前期前半
兵庫県明石市	藤江別所遺跡	重圏文鏡	4.1	井戸	埋土	古墳前期前半
兵庫県明石市	藤江別所遺跡	素文鏡	3.84～3.96	井戸	埋土	古墳前期前半
兵庫県明石市	藤江別所遺跡	重圏文鏡	3.9	井戸	埋土	古墳前期前半
兵庫県明石市	藤江別所遺跡	重圏文鏡	3.7	井戸	埋土	古墳前期前半
兵庫県明石市	藤江別所遺跡	珠文鏡	6.51～6.52	井戸	埋土	古墳前期前半
兵庫県明石市	藤江別所遺跡	珠文鏡	5.08～5.10	井戸	埋土	古墳前期前半
兵庫県明石市	藤江別所遺跡	素文鏡	2.54～2.56	井戸	埋土	古墳前期前半
兵庫県明石市	藤江別所遺跡	重圏文鏡	3.0	井戸	埋土	古墳前期前半
兵庫県姫路市	長越遺跡	素文鏡	3.7	大溝	肩部	古墳中期
兵庫県神戸市	三番町遺跡	珠文鏡	4.9	溝		不明
兵庫県神戸市	吉田南遺跡	重圏文鏡	2.8	溝		古墳前期
兵庫県神戸市	篠原遺跡第SD01	弥生内行花文系鏡 (高倉Ⅲb、田尻5)	7.9・歪みあり	大溝		弥生後期

兵庫県神戸市	表山遺跡環濠	弥生小形仿製鏡	6.8	溝		弥生後期
兵庫県神戸市	新方遺跡	弥生内行花文系鏡 (高倉I b、田尻2a)	5.6	溝		弥生時代
兵庫県南あわじ市	鉦田遺跡	弥生内行花文系鏡	8.5	溝		弥生後期
香川県高松市	居石遺跡	珠文鏡	5.4	河川跡		古墳前期前半
香川県高松市	居石遺跡	重圏文鏡	3.6	河川跡		古墳前期前半
香川県高松市	居石遺跡	素文鏡	2.72~ 2.78	河川跡		古墳前期前半
香川県さぬき市	寺田・産宮通遺跡	弥生内行花文系鏡 (高倉III b、田尻5)	7.8	溝		弥生中期中～後 期後半
愛媛県北条市	大相院遺跡	弥生重圏文系鏡?	破片	自然流路		弥生後期
愛媛県松山市	道後町遺跡II	弥生小形仿製鏡 (文様不明)・鏡片	復元7.2	溝	埋土	弥生後期
鳥取県鳥取市	青谷上寺地遺跡	素文鏡	4.9	溝		弥生後期
鳥取県米子市	山田遺跡1区	珠文鏡・鏡片	復元7.0	溝		古墳中期
福岡県北九州市	伊崎遺跡M13	弥生内行花文系鏡 (高倉II a、田尻2b)	7.1	溝	3層	弥生前期
福岡県北九州市	長野フンデ遺跡6A区土器溜 まり	弥生小形仿製鏡 (高倉II'、田尻4)	8.3	自然流路	土器溜まり	古墳前期前半
福岡県北九州市	金山遺跡VI区	弥生内行花文系鏡 (高倉II a、田尻2b)	8.9	水路	弥生土器とともに出土	弥生後期?
福岡県京都郡苅田町	稲光遺跡	重圏文鏡	3.5	川	土器とともに出土	弥生終末期
福岡県古賀市	馬渡・束ヶ浦遺跡	弥生内行花文系鏡 (高倉II b、田尻3a)	8.5	溝		弥生後期後半
福岡県福岡市	雀居遺跡SD002	弥生内行花文系鏡 (高倉II a、田尻2b)	9.1	溝	3層	弥生後期
福岡県福岡市	野多目前田遺跡第I調査区	内行花文鏡	復元18.1	溝状遺構	最下層	古墳
福岡県甘木市	平塚川添遺跡	弥生内行花文系鏡 (高倉II a、田尻2b)	7.6	内濠	埋土上層	弥生後期
福岡県甘木市	平塚川添遺跡	弥生内行花文系鏡 (高倉II a、田尻2b)	8.9	内濠	埋土上層	弥生後期
佐賀県鳥栖市	平原遺跡2区SX222	内行花文鏡・鏡片	復元7.4	水田		古墳中期
佐賀県鳥栖市	本行遺跡	弥生内行花文系鏡 (高倉II b、田尻3a)	7.8	溝		弥生後期
佐賀県鳥栖市	本行遺跡	弥生小形仿製鏡・素文鏡	5.5	溝		弥生後期
佐賀県神埼市	吉野ヶ里遺跡吉野ヶ里丘陵 地区II区SD0054溝	弥生内行花文系鏡 (高倉II b、田尻3a)	6.4	溝		弥生後期後半～ 終末期
佐賀県神埼市	吉野ヶ里遺跡田手二本黒木 地区169トレンチ	弥生内行花文系鏡 (文様不鮮明)	8.9	溝		弥生後期後半～ 終末期
佐賀県神埼市	吉野ヶ里遺跡SD0832	弥生内行花文系鏡 (高倉II b、田尻3a)	6.6	溝		弥生後期後半～ 終末期
佐賀県神埼市	吉野ヶ里遺跡吉野ヶ里丘陵 地区V区SD0925溝	弥生内行花文系鏡 (高倉II b、田尻3a)	7.6	溝		弥生後期後半～ 終末期
佐賀県神埼郡吉野ヶ里町	吉野ヶ里遺跡吉野ヶ里丘陵 地区VII区SD2121	弥生内行花文系鏡 (高倉II a、田尻2b)	8.6	溝		弥生後期後半～ 古墳前期
佐賀県神埼郡吉野ヶ里町	吉野ヶ里遺跡吉野ヶ里丘陵 地区II区第221調査区SD0265	弥生内行花文系鏡 (高倉II a、田尻2c)	6.8	溝		弥生後期後半～ 終末期
佐賀県佐賀市	惣座遺跡SD019	弥生内行花文系鏡 (高倉I b、田尻2a)	6.1	溝		弥生終末期
佐賀県佐賀市	惣座遺跡SD019	弥生小形仿製鏡	破片	溝		弥生終末期
長崎県南島市	今福遺跡B3・4区	弥生小形仿製鏡	復元7.5	溝		弥生
長崎県南島市	今福遺跡B3・4区	弥生小形仿製鏡	復元7.8	溝		弥生
大分県大分市	植田条里遺跡	弥生重圏文系鏡 (高倉I b、田尻1う)	6.1	溝		弥生後期後半～ 古墳前期
熊本県宇土市	宇土城址SD01	神獸鏡	欠損15.2	溝		古墳前期
熊本県玉名市	柳町遺跡4SX049	内行花文鏡	復元5.6・ 穿孔1	溝状遺構		古墳前期後半?
熊本県菊池市	小野崎遺跡年賀塚I区SD- 01上層	弥生小形仿製鏡 (高倉II a?・田尻2b?)	復元6.6	溝		弥生後期

第3表 仿製鏡と海浜・島嶼の祭祀遺跡一覧

所在地	遺跡名	鏡式	面径 (cm)	遺構	出土位置・特記事項	時期
岡山県岡山市	高島岩盤山遺跡	重圏文鏡	欠損	岩上	在地の祭祀	古墳中期後半～ 後期
香川県三豊市	船越遺跡	素文鏡	4.0	砂堤	在地の祭祀。近くから製塩 土器出土	古墳中期
愛媛県越智郡上島町	大木遺跡	重圏文鏡	3.9	包含層	在地の祭祀	古墳中期後半
愛媛県今治市	火内遺跡	重圏文鏡	6.0	海浜部	遺物包含層、在地の祭祀?	古墳中期～後期 前半
福岡県宗像市	沖ノ島16号遺跡	三角縁神獸鏡	20.5	岩上	一部露出し出土。鏡面は上。 沖ノ島遺跡は大和王権と関 係する遺跡と考えられる	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島16号遺跡	素文鏡	3.0	岩上	三角縁神獸鏡近くから出土	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島16号遺跡	内行花文鏡	9.1	岩上	現位置を留めていない	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島16号遺跡	方格規矩鏡	6.9	岩上	現位置を留めていない	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	方格規矩鏡	27.1	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	方格規矩鏡	26.2	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	方格規矩鏡	22.1	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半

福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	方格規矩鏡	21.5	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	方格規矩鏡	17.8	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	方格規矩鏡	16.6	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	方格規矩鏡	18.0	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	内行花文鏡	18.7	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	内行花文鏡	17.6	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	内行花文鏡	17.0	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	龍鏡	23.7	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	龍鏡	12.9	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	変形文鏡	10.0	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	変形獣形鏡	16.7	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	変形獣形鏡	16.4	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	変形画像鏡	22.0	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	変形画像鏡	15.0	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	三角縁神獣鏡	24.3	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	三角縁神獣鏡	21.6	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	三角縁神獣鏡	20.0	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島17号遺跡	変形夔龍鏡	22.1	岩上	鏡は集積され出土。鏡面上	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島18号遺跡	夔龍鏡	破片	岩上	一面離れ、鏡面下で出土	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島18号遺跡	三角縁神獣鏡	23.4	岩上	一列に鏡面上にして出土	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島18号遺跡	三角縁神獣鏡	20.9	岩上	一列に鏡面上にして出土	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島18号遺跡	三角縁神獣鏡	20.6	岩上	一列に鏡面上にして出土	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島18号遺跡	三角縁神獣鏡	破片	岩上	一列に鏡面上にして出土	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島18号遺跡	鏡片・鈕のみ	破片	岩上		古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島18号遺跡	鏡片・鈕のみ	破片	岩上		古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島18号遺跡	内行花文鏡	10.0	岩上		古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島18号遺跡	四乳櫛歯文鏡	7.8	岩上		古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島18号遺跡	素文鏡	3.9	岩上		古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島19号遺跡	内行花文鏡	24.8	岩上	鏡面上にして出土	古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島19号遺跡	変形文鏡	破片	岩上		古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島21号遺跡	龍鏡	13.0	岩上		古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島21号遺跡	格子日鏡	11.9	岩上		古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島21号遺跡	四乳渦文鏡	9.2	岩上		古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島21号遺跡	円鏡文鏡・鈕のみ	破片	岩上		古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島21号遺跡	素文鏡	破片	岩上		古墳前期後半
福岡県宗像市	沖ノ島8号遺跡	方格規矩鏡	14.1	岩陰	地表下10cm、背面上	古墳中期～後期
福岡県宗像市	沖ノ島8号遺跡	変形文鏡	10.0	岩陰		古墳中期～後期
福岡県宗像市	沖ノ島7号遺跡	珠文鏡	9.2	岩陰	岩陰中央部	古墳中期～後期
福岡県宗像市	沖ノ島7号遺跡	鏡片	不明	岩陰		古墳中期～後期
福岡県宗像市	沖ノ島15号遺跡	乳文鏡	9.2	岩陰	石の下から鏡面下で出土	古墳中期～後期
福岡県宗像市	沖ノ島23号遺跡	珠文鏡	欠損6.0	岩陰	一段上がった岩の上から	古墳後期

第4表 仿製鏡と山の祭祀遺跡一覧

所在地	遺跡名	鏡式	面径 (cm)	遺構	出土位置・特記事項	時期
福岡県白河市	建鉢山遺跡高木地区	珠文鏡	4.6	山腹の巨石	遺物包含層	古墳中期
群馬県富岡市	久保遺跡	素文鏡	4.8	墳丘状遺構	榛名山二ツ岳への祭祀	古墳後期
群馬県富岡市	久保遺跡	素文鏡	2.5	墳丘状遺構	榛名山二ツ岳への祭祀	古墳後期
静岡県熱海市	宮脇遺跡B地区	素文鏡	3.7	神木の下	向山への祭祀	古墳中期～古代
静岡県熱海市	宮脇遺跡B地区	素文鏡	3.5	神木の下	向山への祭祀	古墳中期～古代
静岡県熱海市	宮脇遺跡A地区	六獣鏡	13.3	大石の下	向山への祭祀	古墳中期～古代
静岡県熱海市	宮脇遺跡A地区	素文鏡	5.0	大石の下	向山への祭祀	古墳中期～古代
静岡県熱海市	宮脇遺跡A地区	素文鏡	4.5	大石の下	向山への祭祀	古墳中期～古代
静岡県熱海市	宮脇遺跡A地区	素文鏡	4.3	大石の下	向山への祭祀	古墳中期～古代
静岡県下田市	洗田遺跡	素文鏡	4.3	丘陵上	三倉山への祭祀	古墳中期～後期
静岡県下田市	洗田遺跡	珠文鏡	7.2	丘陵上	三倉山への祭祀	古墳中期～後期
三重県名張市	土山遺跡	四獣鏡	8.0	岩盤露頭部	露頭付近	古墳中期
三重県名張市	土山遺跡	重圓文鏡	3.3	岩盤露頭部	露頭付近	古墳中期
奈良県桜井市	山ノ神遺跡	素文鏡	3.0	山の岩盤		古墳中期
福岡県前原市	坂の下祭祀B-20-a工区	重圓文鏡	5.6	岩場		古墳中期～後期

注1：弥生時代小形仿製鏡の分類は以下の文献を参考にした。

高倉洋彰 1985 「弥生時代小形仿製鏡について（承前）」『考古学雑誌』第70巻第3号、日本考古学会、94～121頁。

田尻義了 2010 「弥生時代小形仿製鏡の集成」『季刊邪馬台国』106号、梓書院、95～116頁。

注2：「弥生内行花文鏡」は、内行花文日光鏡系仿製鏡・内行花文系小形仿製鏡、「弥生重圓文鏡」は重圓文日光鏡系仿製鏡・重圓文系小形仿製鏡とする。

注3：鏡式で「弥生」を加えたものは、弥生時代小形仿製鏡であり、それ以外は古墳時代の小型仿製鏡である。

注4：参考文献については紙面の関係上割愛した。

第5表 水辺の祭祀遺跡一覧

No.	所在地	遺跡名	遺跡概要・特記事項	祭祀遺構・遺物	時代	備考
1	滋賀県甲賀市	新宮神社遺跡	甲賀寺と紫香楽宮を結ぶ道路状遺構と関連施設を検出	舟形代人形代、木沓（いずれも旧河道1からの出土）	奈良時代	舟形代・人形代は橋脚付近での祭祀に関連
2	滋賀県近江八幡市	芦刈遺跡・大中の湖南遺跡	琵琶湖に面した律令期の港湾施設	木製祭祀具（人形・刀形など）	7世紀～8世紀	
3	滋賀県守山市	弘前遺跡	①弥生時代中期の方形周溝墓②古墳時代前期・中期末・後期末の集落跡、③奈良時代後半遺構の条里制集落跡。飛鳥時代～奈良時代前半は遺構が希薄	①土坑（土師器小型壺を伴う）。 ②溝（土師器壺・甕・高坏・土玉を伴う）	古墳時代前期	②は祭祀ではなく、投棄の可能性もある
4	滋賀県東近江市	金貝遺跡	奈良～平安時代の集落跡、室町時代の溝状遺構	神社遺構	8世紀後半～9世紀前半	8世紀後半の神社は、水利に関連して建てられる？
5	京都府宮津市	難波野遺跡・難波野条里制遺跡	海浜部に立地する祭祀・集落跡。①古墳時代の祭祀遺構。②中世の龍神社に関連する可能性がある居館跡などが検出された	壺、甕、滑石製勾玉・白玉・有孔円板（水辺の祭祀跡というだけでなく海上交通の安全も祈願？）	古墳時代中期（5世紀後半ごろ）	付近に龍神社があり、関連？
6	京都府久御山町	佐山遺跡	①弥生後期中葉～古墳中期末の集落。②10～13世紀の水田跡・居館跡。③14世紀以降の島島跡	犠牲獣（12世紀末の土器を伴う護岸施設SX1100から出土）	12世紀？	勾玉、土馬、埴輪も出土
7	大阪府寝屋川市	小路遺跡	古墳時代以降、各時代の集落跡。今回の調査では、①縄文時代の自然流路、②古墳時代前期初めの前方後方形周溝墓の周溝、③奈良時代～平安時代初めの祭祀遺物と条里制関連？の里道・水路などが特筆される	絵馬、斎串、木製人形、馬歯（すべて奈良時代の溝（幹線水路？）から出土。とくに人面墨書土器が多量）	奈良時代	
8	大阪府八尾市	久宝寺遺跡竜華地区	縄文時代晩期から近代まで継続する遺構面を確認。弥生時代の集落跡・水田跡、60基以上からなる古墳時代初めの墳墓群、同時期の水田などが特筆される	赤塗した高坏（05418溝からの出土）	古墳時代前期（布留期中段階）	
9	大阪府八尾市	久宝寺遺跡竜華地区	縄文時代晩期から近代まで継続する遺構面を確認。弥生時代の集落跡・水田跡、60基以上からなる古墳時代初めの墳墓群、同時期の水田などが特筆される	完形の墨書土器、土師器（池03019・03021溝出土。祈雨に関連？）	8世紀末～9世紀前半	
10	大阪府八尾市	植松遺跡	旧大和川の支流となる自然流路を検出。流路の時期は、古墳時代中期～平安時代初め	ミニチュア土器、墨書土器	8世紀～9世紀初め	
11	大阪府寝屋川市	讃良郡条里遺跡	弥生時代中期、古墳時代中期以降の集落跡。古墳時代中期～後期の居住域において、韓式系土器が出土し、渡来人とのかかわりが想定された。奈良時代以降は条里制地割による小規模居住域や島島を中心とする耕作地へと展開した	土馬、土馬の周囲に散布された白玉700点以上、鉄製品、曲げられた状態の鉄剣（いずれも流路へ投棄を伴う祭祀）	5世紀半ば～6世紀？	流路から5世紀中ごろ～6世紀の遺物が出土
12	大阪府大阪市	加美遺跡	弥生時代～近世の複合遺跡。弥生時代中期の大型墳丘墓、弥生時代後期後半～古墳時代前期の周溝墓群と集落跡が特筆される	人面墨画土器、人形木製品、絵馬および動物遺体（いずれも人工の運河とみられる大規模な流路からの出土）	奈良時代	運河の掘削から祭祀の実行に至るまで公的な支配が強く及んでいたとされる
13	大阪府大阪市	長原遺跡00-6次	後期旧石器時代～近代における大阪平野を代表する遺跡。後期旧石器時代～縄文時代草創期の石器製作址、縄文時代晩期の土器群（長原式土器）、飛鳥～奈良時代の方格地割にもとづく水田跡などが特筆される。平安時代と室町時代以降は遺構が比較的希薄	木製人形（溝SD401最下層からの出土）	11世紀前半	
14	大阪府大阪市	長原遺跡01-14次	後期旧石器時代～近代における大阪平野を代表する遺跡。後期旧石器時代～縄文時代草創期の石器製作址、縄文時代晩期の土器群（長原式土器）、飛鳥～奈良時代の方格地割にもとづく水田跡などが特筆される。平安時代と室町時代以降は遺構が比較的希薄	ミニチュア土器（甕・甔・甗・高坏）、墨画土器、斎串、横櫛、ウシ・ウマの骨（いずれもNR501からの出土）	8世紀前半	
15	大阪府大阪市	長原遺跡07-1次	後期旧石器時代～近代における大阪平野を代表する遺跡。後期旧石器時代～縄文時代草創期の石器製作址、縄文時代晩期の土器群（長原式土器）、飛鳥～奈良時代の方格地割にもとづく水田跡などが特筆される。平安時代と室町時代以降は遺構が比較的希薄	人面墨画土器、ウシ・ウマの骨（いずれも自然流路からの出土）	奈良時代前半	
16	大阪府吹田市	五反島遺跡	①平安時代前期の大規模堤防を検出。②平安時代前期の祭祀関連遺物を多量検出	笹塔婆	16世紀前半	笹塔婆によって16世紀前半頃には周辺の河辺で塔婆を用いる仏教儀礼が行われていたとされる。鉄鏝、刀子、小刀、鉸具、銭貨（北宋銭）なども出土
17	兵庫県神戸市	住吉宮町遺跡第33次	庄内期の集落跡、奈良時代～平安時代前半の掘立柱建物跡2・土坑など	壺形土器（谷状地形での水辺の祭祀に関連。土器は谷状地形が埋没するときに投棄）	古墳時代前期	

18	兵庫県豊岡市	入佐川遺跡	弥生時代後期～古墳時代中期の貯木場・堅穴住居跡など、奈良～平安時代の溝跡、中世の山城関連遺構	溝跡SD201（石錐を伴い、祭祀的な性格を持って形成）	古墳時代前期	
19	兵庫県神戸市	雲井遺跡第28次	遺構面は縄文時代早期・後期、弥生時代中期初頭・中期前半、弥生時代後期末～古墳時代前期、古墳時代後期～飛鳥時代、鎌倉時代～近代の8面が確認された。最盛期は弥生時代中期で、第4遺構面から武器形青銅器銚型や玉作り関連遺物などが見つかった	供献土器群（3区SD401から出土。壺が多い）	弥生時代中期後半	
20	兵庫県多可町	安坂・城の堀遺跡	7世紀の犁、8世紀の祓所など	木製祭祀具（畜串・人形・馬形・鋤先形・刀形など。溝から出土）	奈良時代	
21	奈良県田原本町	東井上遺跡第1次	弥生時代～中世の集落跡・耕作地	白玉、人面墨書土器、土馬（いずれもSR-1101から出土）	6世紀末葉～8世紀前半	
22	奈良県大和高田市	土庫長田遺跡第1次～第3次	①古墳時代前期～中期の集落遺跡（堅穴住居跡など）、②古墳時代後期の耕作関連遺構、③9～11世紀の糸里副水田跡が検出された。古墳時代前期～後期の大河道や多量の韓式系土器も特筆される	植物種子、滑石製勾玉、有孔円盤（いずれも大河道から出土）	古墳時代	
23	和歌山県有田川町	野田地区遺跡	古墳時代前期から中世の水にかかわる祭祀を行っていた場所	形代？（遺構10（溝）から検出。付近での水辺の祭祀と関連？布留期の土器を伴う）	古墳時代前期？	（水辺の）祭祀は遺跡に隣接する藤並神社とも関連？
24	和歌山県有田川町	野田地区遺跡	古墳時代前期から中世の水にかかわる祭祀を行っていた場所	壺（11世紀の溝8から出土。完形の土師器椀・台付皿と共存。犁が祭祀に用いられる？）	11世紀	
25	和歌山県かつらぎ町	西飯降Ⅱ遺跡	①弥生時代中期の集落跡、②古墳時代前期・後期の集落跡、③平安時代の糸里制水田跡、④鎌倉～室町時代の掘立柱建物跡・水田跡	コウヤマキ製の下駄（自然流路6からの出土）	古墳時代後期	
26	島根県出雲市	志志郷遺跡F区・G区	①古墳時代前期の集落跡、②古墳時代後期の溝跡、③飛鳥時代～平安時代初めの「神門郡家」関連とみられる掘立柱建物跡など、④15世紀以降の水田跡。9世紀中葉～中世前半の遺構は皆無	溝SD39（大刀・土玉・手捏ね土器を伴う）	7世紀前半	
27	島根県出雲町	家ノ脇Ⅱ遺跡2区	古墳時代後期の斐伊川河道や土器溜まりなどが確認された	集石、土器溜まり（赤色塗装され器面が磨かれた土師器の高坏・甕などを伴う。川辺の祭祀）	古墳時代後期	
28	島根県出雲市	大津町北遺跡	弥生時代後期以降の集落跡。主たる遺構は中世の集石と近世の水田跡	赤彩あるいは胎土が鮮やかな壺・甕型土器・高坏・低脚坏・注口土器・甕（3層からの出土。斐伊川の支流？大きな神社が存在？）	弥生時代後期末葉～古墳時代中期	
29	島根県江津市	高津遺跡	弥生時代後期～古墳時代後期を中心とした集落跡。飛鳥時代遺構は明確な遺構は確認されていない	割れた装飾壺、絵画土器（いずれも大溝から出土）	弥生時代後期後葉？	共存遺物は畿内V-4様式のもの
30	島根県江津市	高津遺跡	弥生時代後期～古墳時代後期を中心とした集落跡。飛鳥時代遺構は明確な遺構は確認されていない	赤塗土器（水場・大溝で出土）	古墳時代後期	水場と大溝を祭祀の対象とする思想が弥生時代から続いていたとされる
31	島根県出雲市	九景川遺跡	古墳時代中期前半、奈良～平安時代初め、鎌倉時代を中心とした集落跡	丹塗高坏・坏、手捏ね土器、ウシの上腕骨	古墳時代後期前半	
32	島根県出雲市	矢野遺跡	縄文時代後期～江戸時代の各時代における集落跡。弥生時代前期～古墳時代前期は出雲平野の拠点集落として継続した	須恵器高杯（溝の中から破片の状態で出土）	5世紀前半	
33	島根県益田市	浜帝遺跡	古墳時代前半～飛鳥時代の須恵器や土師器などが検出され、水際での祭祀に関連した場所である可能性も見出された	完形の土器（水際での祭祀？）	古墳時代前半～飛鳥時代	
34	島根県飯南町	森V遺跡	①縄文～弥生時代の集落跡、②室町時代の祭祀跡	土坑（土師質土器・鉄製品が埋納される。祭祀跡か墳墓？）	中世後半	10m東の神戸川に龍神を祀る祠がある
35	岡山県倉敷市	上東遺跡	古墳時代の河道、水田、貝塚、獣骨などが確認された	波止場状遺構（貨泉・完形土器を伴う）	弥生時代後期～古墳時代	
36	岡山県岡山市	津島遺跡	弥生時代前期以降、各年代の集落跡・水田跡	須恵器（須恵器の杯身・蓋を5個体重ねて配置）	（弥生時代～）古墳時代後期	祭祀は弥生時代から継続
37	岡山県総社市	北溝手遺跡	弥生時代以降、各年代の集落跡・水田跡。今回は河道部の調査で、弥生時代、古墳時代、平安時代の遺物と、中世の土墳墓が検出された	特殊器台（河道から出土）	弥生時代後期	
38	岡山県総社市	南溝手遺跡	弥生時代以降～古代の各時代の集落跡で、古代においては寺院とも関連	陶馬（河道最下層から出土）	7世紀後半～8世紀初め	
39	岡山県岡山市	津寺遺跡	弥生時代前期以降、各年代の集落跡・水田跡	土器（溝から出土）	古墳時代前期初め	

40	広島県庄原市	大仙2号遺跡	弥生時代中期の住居跡、古墳時代の畿内系土器・山陰型甕形土器、中世の祭祀遺構などが見つかった	祭祀遺構SX1（溝状遺構/高坏7個体を伴う）	古墳時代	
41	広島県東広島市	青谷1号遺跡	弥生時代後期の溝跡・土坑、奈良時代の掘立柱建物跡など	溝遺構SD1（投棄された？大型の壺形土器・甕形土器・鉢形土器を伴う。上層から弥生時代終末期、下層から弥生時代後期前葉の遺物が出土）	弥生時代後期	
42	広島県東広島市	安芸国分寺周辺遺跡	安芸国分寺の軸線に沿った溝状遺構が検出された	土師質土器（流路から出土。流路廃絶に伴う儀式）	13世紀～14世紀	
43	山口県下関市	川棚条里跡木舟地区・田尻地区	弥生時代後期中葉～古墳時代の集落跡、中世の墓	落ち込み（甕・鉢・高坏・ミニチュア土器などを伴う/水壺祭祀）	弥生時代後期末葉（庄内期を含む）	
44	山口県下関市	武久川下流域条里遺跡	弥生時代後期終末～古墳時代初頭の集落跡。掘立柱建物跡、祭祀後に一括廃棄されたとみられる土器群、線刻土器が出土	土器溜まり（器台・小型鉢・ミニチュア土器・穿孔土器など）	弥生時代後期末葉～古墳時代前期初め（庄内）	
45	山口県下関市	伊倉遺跡	①弥生時代末～古墳時代の山谷の埋没、②古墳時代の谷頭における祭祀跡が確認された	井戸状遺構（須恵器平瓶を伴う）	古墳時代	
46	山口県下関市	西沢遺跡	弥生～古墳時代の集落跡	不明遺構SX003（小型丸底壺・高坏・手づくね土器などを伴う）	弥生時代後期～古墳時代中期	
47	山口県下関市	寺ヶ谷遺跡	弥生時代～中世の集落跡	①土器集積遺構SX0007（13世紀後半）、②土器集積遺構SX0015（14世紀前半）	13世紀後半～14世紀前半	SX0007・0015とも水辺の祭祀と関連
48	徳島県三好市	大柿遺跡	縄文時代後期以降の集落跡。平安時代末葉～鎌倉時代に集落が最も拡大し、掘立柱建物跡群が検出された	溝跡SD7014・7015（自然礫・赤塗須恵器・鹿角などを伴う）	古墳時代	
49	徳島県徳島市	観音寺遺跡	古墳時代後期から中世の遺構が確認された。木簡をはじめ容器、祭祀具などの木製品が大量に出土した	多量の木製祭祀具（畜串・人形・舟形など）、銅製品	8世紀前半～9世紀前半	各層は自然流路の各層から層位的に木製祭祀遺物が出土
50	徳島県徳島市	観音寺遺跡	奈良時代～中世の自然流路。祭祀具などの木製品、木簡、容器が多量に出土	木製祭祀具（人形など。自然流路から出土）	古代～中世（とくに9世紀～10世紀）	
51	徳島県徳島市	庄（庄・蔵本）遺跡	①弥生時代前期の土坑・土器だまり・炭化米が見つかった。②平安時代の水路から多量の墨書土器や畜串が出土し、付近に官衙施設の存在が想定できる。③近世～近代の大溝、井戸などが見つかった	木製祭祀具（主に畜串）、土馬、墨書土器	平安時代	
52	香川県さぬき市	寺田・産宮遺跡	①弥生時代中期後半～後期前半、②弥生時代後期後半～古墳時代前期初め、③古墳時代後期末葉、④平安時代後半、⑤鎌倉時代、⑥室町時代後半以降の集落跡	小形仿製鏡（第2低地帯の河床面から出土。周辺の水辺の祭祀と関連）	弥生時代後期後半	
53	香川県高松市	前田東・中村遺跡	①弥生時代中期～後期の溝状の遺構・自然河川。②古代の掘立柱建物跡・欄列跡など。③中世の掘立柱建物跡・窯跡など	畜串、木製模造品、墨書土器など（いずれも自然河川から出土。郡境での境界祭祀？）。	古代。	
54	香川県善通寺市	旧練兵場遺跡	①弥生時代後期～古墳時代前期を中心とした集落跡。②奈良～鎌倉時代の条里制地割・農耕地	ミニチュア土器（SD56出土）、赤色顔料土器（SD56・SR01出土）、線刻面土器（大半がSD56出土）、金属製品（住居の廃絶に用いられる？）	弥生時代後期	
55	香川県高松市	天満・宮西遺跡	弥生時代後期～古墳時代前期初めの旧河道。搬入土器、特殊器台、赤色顔料付着土器が出土した	特殊器台（旧河道から出土）	弥生時代後期～古墳時代前期	
56	香川県高松市	西下遺跡	7世紀と14世紀の遺構・遺物が検出された。主体は7世紀前半の大型掘立柱建物跡で、条里制地割と合致することから規格性が認められる	鳥形木製品（SD103から出土）	7世紀	
57	愛媛県松山市	道後町遺跡	弥生時代以降の集落跡。弥生時代前期～中期と中世以降が中心	小形仿製鏡（SD8から出土）、鏡の右製品模造品	弥生時代後期～古墳時代前期初め	
58	愛媛県今治市	高橋佐夜ノ谷Ⅱ遺跡第2次	後期旧石器時代～古墳時代の遺物	壺、甕、高坏、鉢など（いずれも自然流路から出土）	弥生時代後期前葉～中葉	
59	愛媛県松山市	船ヶ谷遺跡第4次	弥生時代前期～古墳時代後期の集落跡	自然流路（陶質土器・滑石製品・口縁部を打ち割った甕が出土）	古墳時代中期～後期	
60	愛媛県西予市	坪栗遺跡	弥生時代後期後半の集落跡	非在地系土器、農具、堅果類、異体字銘帯鏡	弥生時代後期？	各遺物はSD04からの出土。SD04は弥生時代後期末葉に埋没
61	高知県高知市	ミトロ遺跡	弥生時代中期前半～古墳時代前期初めの集落跡。遺跡の中心は弥生時代後期末葉～古墳時代前期初めで、小形堅穴住居跡、掘立柱建物跡などが検出された	溝跡SD3S・SD3N（SD3S廃絶後にSD3Nを掘削。SD3Sを埋めた後に行われた祭祀？）	弥生時代後期末葉～古墳時代前期初め（庄内期）？	庄内式土器を伴う
62	高知県土佐市	北ノ丸遺跡	古墳時代後期の多量の木製品が検出された	琴、鏡板など	古墳時代後期	

